

# 平成 22 年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント

## ○調査の概要

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

### (2) 調査の対象学年

- 小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年
- 中学校第 3 学年，中等教育学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年

### (3) 調査の内容

- ①教科に関する調査（国語，算数・数学）
  - ・主として「知識」に関する問題〔国語 A，算数・数学 A〕
  - ・主として「活用」に関する問題〔国語 B，算数・数学 B〕
- ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

### (4) 調査の方式

平成 19 年度から 21 年度までの<sup>しつ</sup>悉皆調査の結果，全国及び各地域等の信頼性の高いデータが蓄積され，教育に関する検証改善サイクルの構築も着実に進んでいることから，22 年度調査においては，これまでの調査と一定の継続性を保ちながら，調査方式を悉皆調査から抽出調査及び希望利用方式に切り替えている。

### (5) 調査日時

平成 22 年 4 月 20 日（火）

### (6) 4 月 20 日に抽出調査を実施した学校・児童生徒数

#### 【小学校調査】

	対象学校数	学校数（抽出率）	児童数
公立学校	21,300校	5,372校（25.2%）	264,193人
国立学校	76校	48校（63.2%）	4,877人
私立学校	199校	29校（14.6%）	1,485人
合計	21,575校	5,449校（25.3%）	270,555人

#### 【中学校調査】

	対象学校数	学校数（抽出率）	生徒数
公立学校	10,094校	4,347校（43.1%）	421,281人
国立学校	81校	49校（60.5%）	6,655人
私立学校	715校	123校（17.2%）	11,422人
合計	10,890校	4,519校（41.5%）	439,358人



## ○教科に関する調査

### ○正答の状況

- 教科に関する調査の平均正答数・正答率は、次のとおりである。

	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
平均 正答数	12.5問 ／15問	7.8問 ／10問	14.1問 ／19問	5.9問 ／12問	26.6問 ／35問	6.7問 ／10問	23.8問 ／36問	6.3問 ／14問
平均 正答率	83.5 ±0.2%	78.0 ±0.2%	74.4 ±0.2%	49.6 ±0.2%	76.1 ±0.2%	66.5 ±0.2%	66.1 ±0.3%	45.2 ±0.4%

#### 【参考】21年度調査

	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
平均 正答数	12.6問 ／18問	5.1問 ／10問	14.2問 ／18問	7.7問 ／14問	25.6問 ／33問	8.3問 ／11問	20.9問 ／33問	8.6問 ／15問
平均 正答率	70.1%	50.7%	78.8%	55.0%	77.4%	75.0%	63.4%	57.6%

### ○過去の調査との同一問題の正答率の比較

- 小学校調査においては、過去の調査との同一問題 11 問（国語 6，算数 5）のうち、5 問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、6 問は今回の方が高くなっている。
- 中学校調査においては、過去の調査との同一問題 12 問（国語 8，数学 4）のうち、3 問は過去の正答率と比べて大きな差はなく、7 問は今回の方が高く、2 問は低くなっている。

		過去の調査と比べて 3ポイント以上 高い問題の数	過去の正答率の前後 3ポイント未満の範 囲にある問題の数	過去の調査と比べて 3ポイント以上 低い問題の数	合計
小学校 調査	22年度 (21年度)	6問 (7問)	5問 (3問)	0問 (1問)	11問 (11問)
中学校 調査	22年度 (21年度)	7問 (4問)	3問 (8問)	2問 (4問)	12問 (16問)

※ 過去の調査とは、昭和 31～41 年度の全国学力調査、昭和 56～58，平成 5～7，13，15 年度の教育課程実施状況調査、平成 16 年度の特定の課題に関する調査、平成 19 年度の全国学力・学習状況調査及び TIMSS（国際数学・理科教育動向調査）を指す。複数回にわたり実施されている場合は、実施年度、対象学年、実施時期が本調査に最も近いものと比較している。  
なお、各調査の対象学年や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

### ○調査時間についての児童生徒の反応

- 解答時間が「やや足りなかった」または「全く足りなかった」と回答した児童生徒の割合は、次のとおりである。

	小学校調査				中学校調査			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
22 年度	9.4%	17.5%	12.3%	37.4%	5.8%	14.2%	10.4%	24.9%
21 年度	42.7%	37.4%	15.8%	28.6%	5.0%	8.0%	7.1%	13.5%

## ○今回の調査の結果から明らかになった課題（１）

- これまでの調査と同様、主として「活用」に関する問題（Ｂ問題）では、記述式問題を中心に正答率の低い問題があり、例えば、次のような課題が見られる。

（国語）

資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること

小学校国語 B 4 「目覚まし時計の情報」と「家族で決めた条件」という複数の資料から、必要な情報（価格・目覚まし音）を関係付けて読み、時計を一つ選んで、その理由を明確にして説明する。（正答率 65.7%）

中学校国語 B 1 三 新聞記事を読んで、興味をもった記事について、書かれている内容をもとに感想を書く。（正答率 52.6%）

（算数・数学）

日常的な事象について、筋道を立てて考え、数学的に表現すること

小学校算数 B 6 (2) バスのドアの動きを数理的にとらえ、示された考えを基に、円周の長さや直線の長さの大小を判断し、その理由を書く。（正答率 14.9%）

中学校数学 B 5 (2) 道具箱のつくりを数学的に解釈し、成り立つ事柄の特徴を説明する。（正答率 10.0%）

- 一方、主として「知識」に関する問題（Ａ問題）は、平均正答率はＢ問題より高いが、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがある。後の学習内容の理解に影響を及ぼすものであるため、Ａ問題の課題についても留意が必要である。

（国語）

文の構成を理解し、伝えたい内容を適切に書いたり、推敲したりすること

小学校国語 A 4 二文を一文にまとめて書く。（正答率 60.6%）

中学校国語 A 4 二 一文を二文に分けるとともに、二文めに主語を補って書く。  
（正答率 43.3%）

→ 小学校国語 H21A 8 一文を二文に分けて書く。（正答率 15.0%）

小学校国語 H19A 5 一文を二文に分けて書く。（正答率 57.9%）

中学校国語 H21A 1 主語と対応させて述語を適切に書く。（正答率 50.8%）

（算数・数学）

割合や比例など、2つの数量の関係を理解すること

小学校算数 A 9 (1)  $50\text{ m}^2$ に占める  $40\text{ m}^2$ の割合を求め、小数や百分率などを用いて表す。  
（正答率 57.8%）

→ 小学校算数 H21A 7 200人のうちの80人の割合を選ぶ。（正答率 57.1%）

小学校算数 H20A 9 (2) 620冊の40%が何冊かを答える。（正答率 55.1%）

中学校数学 A 9 (3) 比例のグラフから  $x$ の変域に対する  $y$ の変域を求める。  
（正答率 47.8%）

→ 中学校数学 H20A 10 今回と同じ比例式のグラフ上に  $x$ の変域を示す。  
（正答率 44.1%）

- ⇒ 思考力・判断力・表現力等といった、知識を「活用」する力と合わせ、基礎的・基本的な知識・技能もしっかりと定着させることが重要である。

○今回の調査の結果から明らかになった課題（2）

○ 中学校調査のうち、平成19年度小学校調査の結果を踏まえた問題では、次のような設問で課題が見られた。中には小学校調査から引き続き課題が見られるものもあり、小学校・中学校を通じた継続的な指導が必要である。

(中学校国語)

A[3]ー スピーチなどにおける話し方の工夫をとらえる。(正答率 59.7%)

平成19年度小学校調査では、聞き手に分かりやすいスピーチのために大切なことを理解しているかどうかをみる問題(A[7])を出題したところ、正答率は55.8%であった。話し方の工夫をとらえることに引き続き課題がある。

A[9]ニ 小学生に向けた案内文となるように適切な文を書く。(正答率 62.0%)

平成19年度小学校調査では、スーパーマーケットの広告における「みなさん、おいで」を適切な勧誘の表現に書き直す問題を出題したところ正答率は77.2%であった。

今回は広告ではなく、地域清掃活動の案内文という比較的公的な文章を題材にして書き直させたところ、正答率は62.0%であった。

案内文のような公的な文章にふさわしい表現をすることに課題がある。

The image shows two documents side-by-side. The left document is a flyer for a supermarket sale titled 'お客様感謝セール' (Customer Appreciation Sale) for 5/12 (Sat) and 5/13 (Sun). It lists items like cream buns, sandwiches, and shortcakes with prices and discounts. The right document is a notice from the second elementary school and first middle school regarding a community cleanup activity. It includes the date (May 16th) and time (8:00 AM to 10:00 AM) and lists instructions for participants.

H19 小B[4]ニ (正答率 77.2%)

H22 中A[9]ニ (正答率 62.0%)

(中学校数学)

A[5](4) 円柱の体積を求める。(正答率 43.2%)

平成19年度小学校調査(円の面積を求める。正答率73.2%)においては、円の面積を直径×円周率や半径×円周率で求めている解答が9.3%であったが、同様の誤りをしたと考えられる生徒(解答類型8)が今回も11.9%おり、円柱の体積を求める場面でも、底面の円の面積を求める際に円周の長さなどと混同している生徒が同程度いると考えられる。

The diagram shows a cylinder with a circular base. The radius of the base is labeled as 10 cm. The height of the cylinder is labeled as 15 cm.

H19 小A[5](3) 円の面積 (正答率 73.2%)

H22 中A[5](4) 円柱の体積 (正答率 43.2%)

A[11](3) 16cm のひもでつくった長方形の横の長さ (y) を縦の長さ (x) で表す。  
(正答率 26.3%)

平成19年度小学校調査に比べて正答率が低いのは、前回は、直前の設問において次のような縦の長さ(16cm)と横の長さ(7cm)の関係を表す表を作成させたのに対し、今回は、問題の場面のみを与えて関係を式に表す問題としたためと考えられる。

H19 小A[7](2) (正答率 75.4%)

たて (cm)	1	2	3	4	5	6	7
横 (cm)	7						

The diagram shows two rectangles. The top rectangle has a height of 1 cm and a width of 7 cm. The bottom rectangle has a height of 2 cm and a width of 6 cm. To the right, a larger rectangle is shown with height x cm and width y cm.

H19 小A[7](3) 縦の長さが 1 cm 増えた際の横の長さの変化を答える。(正答率 75.3%)

H22 中A[11](3) 横の長さ(y)を縦の長さ(x)で表す。  
(正答率 26.3%)

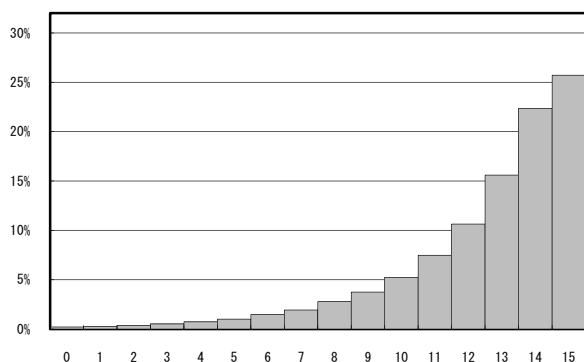
しかし、今回も前回と同様に x と y の関係を表に整理すれば、関係を式に表しやすくなる。今回の結果から、具体的な事象における 2 つの数量の関係において、それらの変化や対応を調べる方法が身に付いていないと考えられる。

## 【小学校国語】

- 国語 A（知識）の平均正答率は 83.5% で、例えば、次のような課題が見られた。
  - ・ 文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むこと〔A<sup>3</sup> 65.3%〕
  - ・ 文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くこと〔A<sup>4</sup> 60.6%〕
- 国語 B（活用）の平均正答率は 78.0% で、例えば、次のような課題が見られた。
  - ・ 話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問すること〔B<sup>3</sup> 70.1%〕
  - ・ 目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明すること〔B<sup>4</sup> 65.7%〕
- 過去の調査との同一問題（6問）のうち、3問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、3問は今回の方が高くなっている。

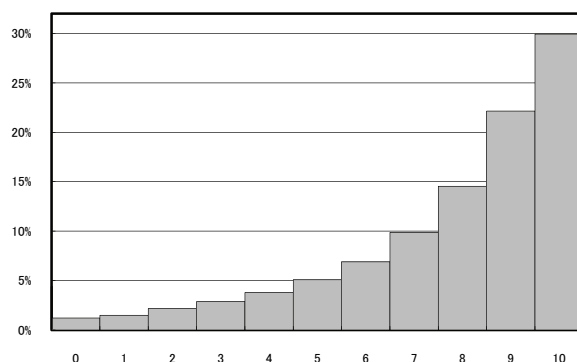
### 【国語 A】

児童数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
270,544 人	12.5 問／15 問 $\left( \begin{matrix} 83.5 \\ \pm 0.2\% \end{matrix} \right)$	13.0 問	2.7



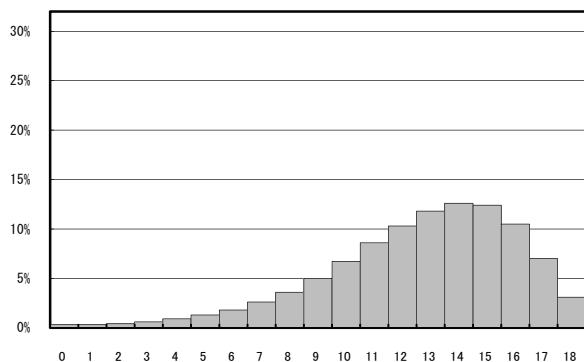
### 【国語 B】

児童数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
270,533 人	7.8 問／10 問 $\left( \begin{matrix} 78.0 \\ \pm 0.2\% \end{matrix} \right)$	9.0 問	2.4



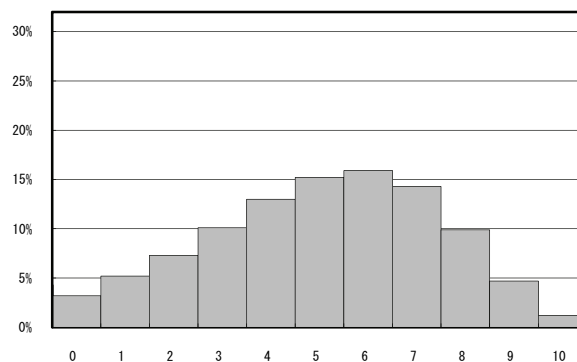
### 【参考】[21 年度国語 A]

児童数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
1,150,061 人	12.6 問／18 問 (70.1%)	13.0 問	3.4



### 【参考】[21 年度国語 B]

児童数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
1,149,850 人	5.1 問／10 問 (50.7%)	5.0 問	2.4



### ○過去の調査問題と同一問題の正答率

問題の内容	正答率	過去の調査の正答率（実施年度・対象学年）
漢字を読む（慣れる）	96.2%	93.4%（平成 15 年度・小 5）
〃（目次）	96.0%	92.9%（平成 13 年度・小 5） 88.6%（平成 5 年度・小 5） 80.5%（昭和 41 年度・小 5）
〃（清潔）	96.5%	82.0%（平成 16 年度・小 5）
漢字を書く（久しぶり）	80.3%	79.2%（平成 15 年度・小 5）
〃（技術）	74.9%	74.0%（平成 16 年度・小 6）
〃（変化）	90.4%	43.1%（昭和 34 年度・小 6）

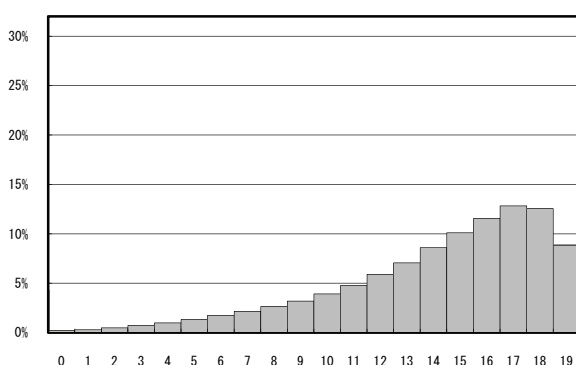
※各調査の対象学年や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

## 【小学校算数】

- 算数A（知識）の平均正答率は74.4%で、例えば、次のような課題が見られた。
  - ・ 商が1よりも小さくなる場面で除法が用いられることを理解すること〔A<sup>2</sup>(1) 54.1%〕
  - ・ 数量を等分したときの1つ分を分数で表すこと〔A<sup>2</sup>(2) 40.6%〕
- 算数B（活用）の平均正答率は49.6%で、例えば、次のような課題が見られた。
  - ・ 平面上にかかれた図を基に、どのような長方形かを考えて書くこと〔B<sup>2</sup>(1) 32.0%〕
  - ・ 示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その理由を書くこと〔B<sup>6</sup>(2) 14.9%〕
- 過去の調査との同一問題（5問）のうち、2問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、3問は今回の方が高くなっている。

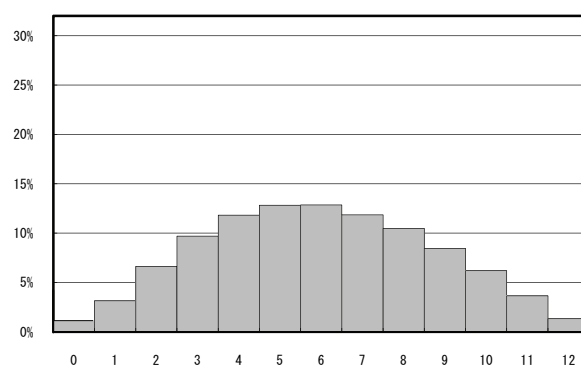
### 【算数A】

児童数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
270,555人	14.1問/19問 $\left( \begin{matrix} 74.4 \\ \pm 0.2\% \end{matrix} \right)$	15.0問	4.0



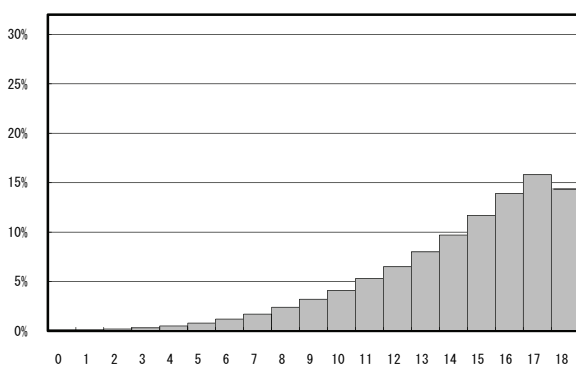
### 【算数B】

児童数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
270,544人	5.9問/12問 $\left( \begin{matrix} 49.6 \\ \pm 0.2\% \end{matrix} \right)$	6.0問	2.7



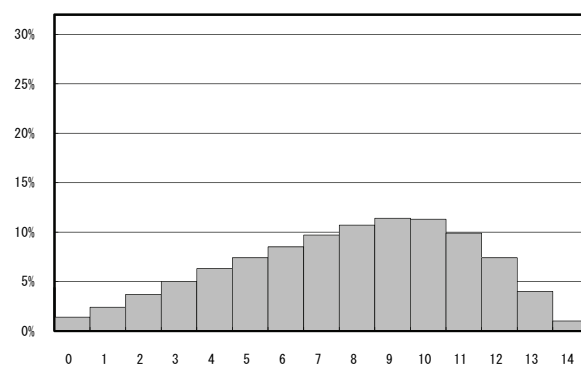
### 【参考】[21年度算数A]

児童数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
1,150,097人	14.2問/18問 (78.8%)	15.0問	3.4



### 【参考】[21年度算数B]

児童数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
1,149,876人	7.7問/14問 (55.0%)	8.0問	3.3



### ○過去の調査問題と同一問題の正答率

問題の内容	正答率	過去の調査の正答率（実施年度・対象学年）
27×3.4を計算する	84.4%	85.6%（平成19年度・小6）79.2%（昭和37年度・小6）
912÷4を計算する	89.7%	73.8%（平成16年度・小4）
長方形の黒い部分を表す分数を選ぶ	69.0%	39.2%（TIMSS2007・小4）
円を分割して並べたときにできる長方形について、縦と横の長さがそれぞれ円のどの部分に当たるかを選ぶ	縦 80.3%	76.4%（平成15年度・小5）
	横 55.5%	56.5%（平成15年度・小5）

\*各調査の対象学年や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

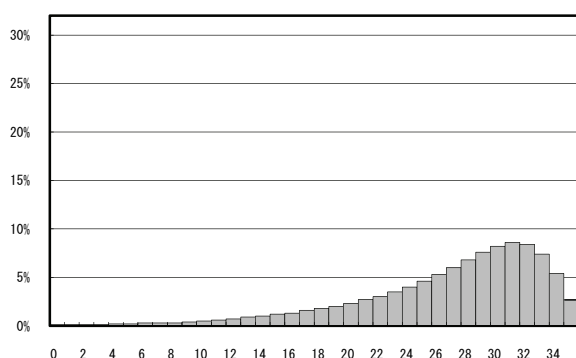


## 【中学校国語】

- 国語A（知識）の平均正答率は76.1%で、例えば、次のような課題が見られた。
  - ・ 分かりやすい文章にするために、二文に分けたり、主語を補ったりすること〔A4〕 43.3%〕
  - ・ 論理の展開の仕方をとらえて、内容を理解すること〔A8〕 58.2%〕
- 国語B（活用）の平均正答率は66.5%で、例えば、次のような課題が見られた。
  - ・ 記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書くこと〔B1〕 52.6%〕
  - ・ 比喩的な表現で書かれた内容について理解すること〔B3〕 37.5%〕
- 過去の調査との同一問題（8問）のうち、6問は過去の正答率と比べて今回の方が高く、2問は低くなっている。

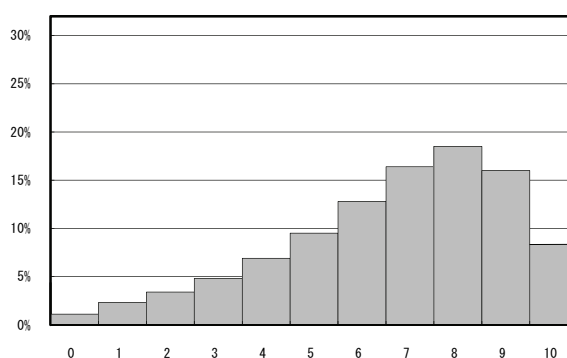
### 【国語A】

生徒数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
439,002人	26.6問/35問 $\left( \begin{matrix} 76.1 \\ \pm 0.2\% \end{matrix} \right)$	28.0問	6.3



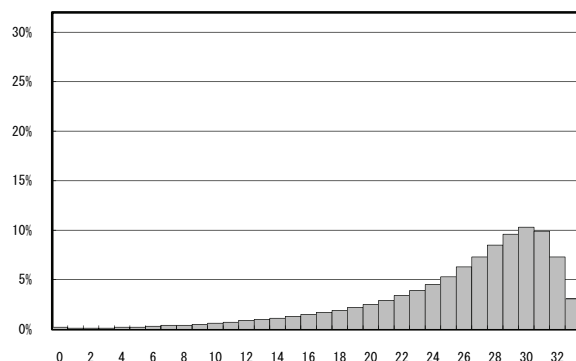
### 【国語B】

生徒数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
439,177人	6.7問/10問 $\left( \begin{matrix} 66.5 \\ \pm 0.2\% \end{matrix} \right)$	7.0問	2.4



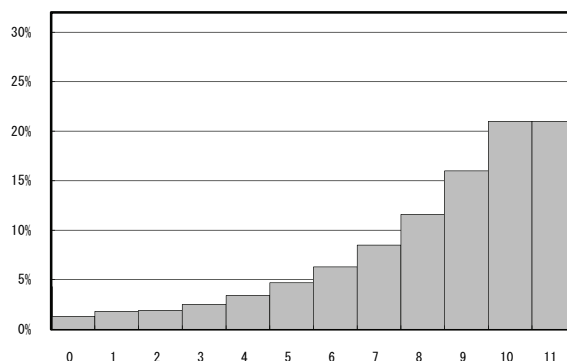
### 【参考】[21年度国語A]

生徒数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
1,077,333人	25.6問/33問 (77.4%)	27.0問	6.1



### 【参考】[21年度国語B]

生徒数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
1,077,767人	8.3問/11問 (75.0%)	9.0問	2.7



### ○過去の調査問題と同一問題の正答率

問題の内容	正答率	過去の調査の正答率（実施年度・対象学年）
漢字を書く（相談）	77.1%	58.3%（平成19年度・小6）
〃（公式）	75.1%	61.0%（平成16年度・中1）
〃（姿）	83.1%	77.6%（平成16年度・中2）
漢字を読む（衝撃）	95.1%	91.1%（平成16年度・中2） 94.4%（平成16年度・中3）
同音異義語の選択（物質が変化していく過程を調べる）	85.1%	80.6%（平成15年度・中2）
同訓異字の選択（決を採る）	44.9%	52.1%（平成15年度・中3）
適切な語句の選択（ひとえに母のおかげです）	64.5%	53.7%（昭和37年度・中3）
敬語の選択（父が学校へ来ると申しておりました）	55.1%	71.5%（平成15年度・中3）

※各調査の対象学年や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

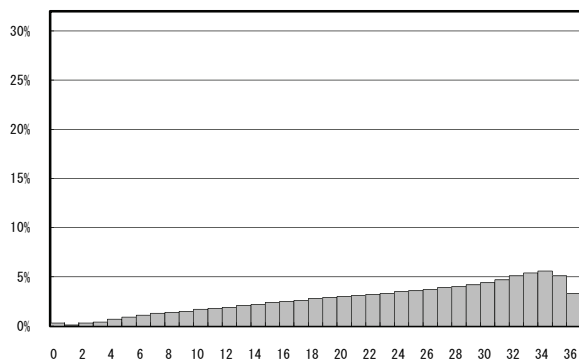


## 【中学校数学】

- 数学A（知識）の平均正答率は66.1%で、例えば、次のような課題が見られた。
  - ・ 証明の意義を理解すること〔A8〕50.0%〕
  - ・ 比例のグラフ上の点（x, y）が、その比例の式を満たしていることを理解すること〔A9〕(2) 43.1%〕
- 数学B（活用）の平均正答率は45.2%で、例えば、次のような課題が見られた。
  - ・ 問題解決のための構想を立て実践し、その結果を数学的な表現を用いて説明すること〔B1〕(3) 30.5%〕
  - ・ 事象を数学的に解釈し、成り立つ事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること〔B5〕(2) 10.0%〕
- 過去の調査との同一問題（4問）のうち、3問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、1問は高くなっている。

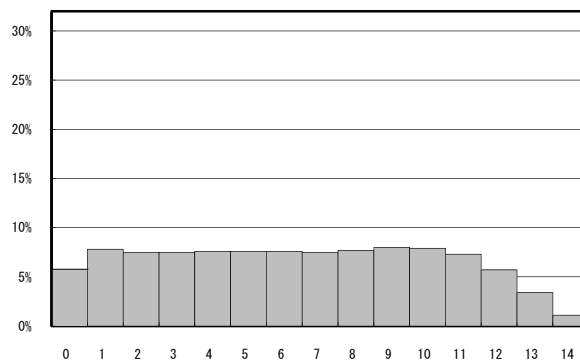
### 〔数学A〕

生徒数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
439,324人	23.8問/36問〔66.1 ±0.3%〕	25.0問	8.8



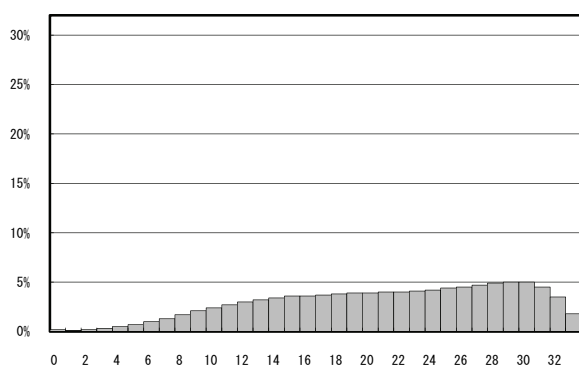
### 〔数学B〕

生徒数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
439,358人	6.3問/14問〔45.2 ±0.4%〕	6.0問	3.9



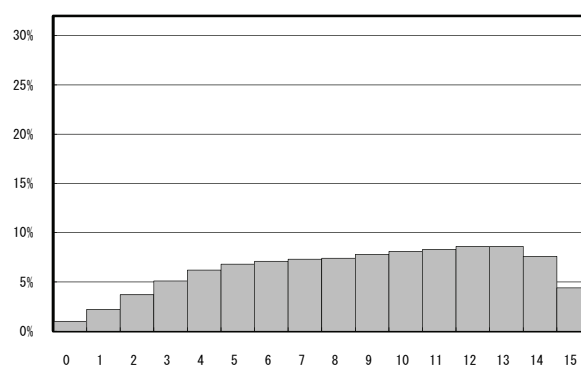
### 【参考】〔21年度数学A〕

生徒数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
1,077,950人	20.9問/33問（63.4%）	22.0問	7.6



### 【参考】〔21年度数学B〕

生徒数	平均正答数（平均正答率）	中央値	標準偏差
1,077,972人	8.6問/15問（57.6%）	9.0問	3.9



### ○過去の調査問題と同一問題の正答率

問題の内容	正答率	過去の調査の正答率（実施年度・対象学年）
1/4+2/5を計算する	85.7%	86.3%（平成15年度・小6）80.8%（平成13年度・小6）
-10より大きい負の整数を1つ書く	75.8%	78.1%（平成16年度・中1）
線対称な図形の対称軸を選ぶ	69.9%	64.9%（平成15年度・中1）64.3%（平成13年度・中1）
総当たり戦の試合数を求める	67.1%	68.1%（平成19年度・中3）

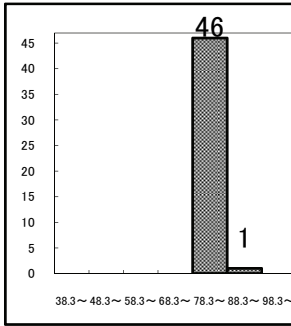
※各調査の対象学年や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

## ○都道府県の状況

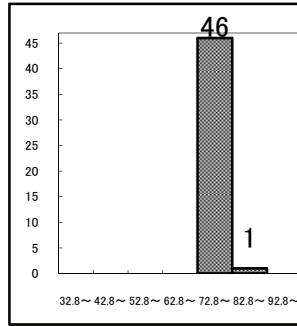
○各都道府県（公立）の状況については、平均正答率を見ると、21年度同様、ほとんどの都道府県が平均正答率の±5%の範囲内にあり、ばらつきが小さい。

【小学校調査】 正答率分布グラフ(横軸:平均正答率(%), 縦軸:都道府県数)

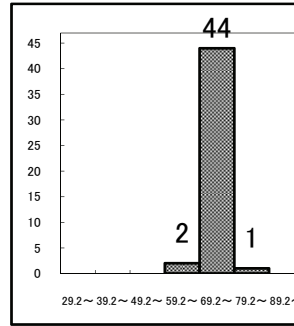
[国語A]



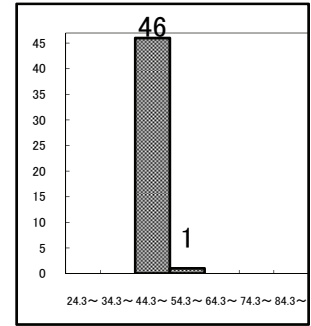
[国語B]



[算数A]



[算数B]

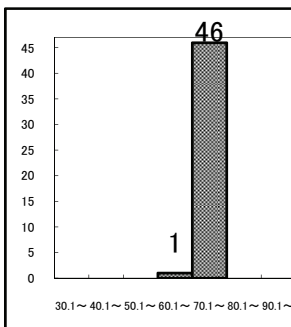


	全国(公立)の 平均正答率(%) [95%信頼区間]	47都道府県(公立)中, 最高平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】	47都道府県(公立)中, 最低平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】
国語A	83.2~83.5 (83.3±0.2)	88.7~89.9 【+5.2~+6.7】	79.1~80.5 【-4.4~-2.7】
国語B	77.7~78.0 (77.8±0.2)	83.9~85.7 【+5.9~+8.0】	72.5~74.6 【-5.5~-3.1】

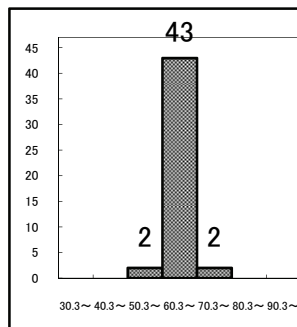
	全国(公立)の 平均正答率(%) [95%信頼区間]	47都道府県(公立)中, 最高平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】	47都道府県(公立)中, 最低平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】
算数A	74.0~74.4 (74.2±0.2)	82.1~84.2 【+7.7~+10.2】	67.8~69.9 【-6.6~-4.1】
算数B	49.1~49.5 (49.3±0.2)	57.8~60.3 【+8.3~+11.2】	43.7~45.5 【-5.8~-3.6】

【中学校調査】 正答率分布グラフ(横軸:平均正答率(%), 縦軸:都道府県数)

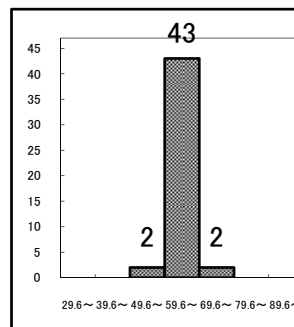
[国語A]



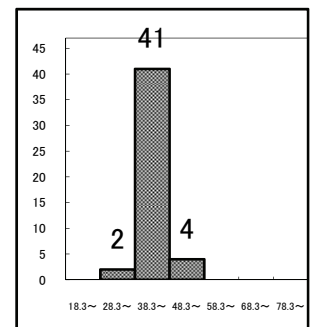
[国語B]



[数学A]



[数学B]



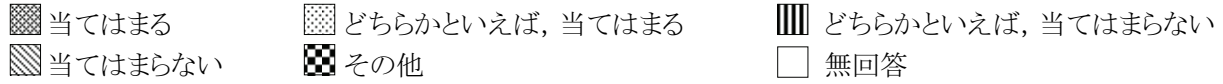
	全国(公立)の 平均正答率(%) [95%信頼区間]	47都道府県(公立)中, 最高平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】	47都道府県(公立)中, 最低平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】
国語A	75.0~75.2 (75.1±0.1)	79.3~80.2 【+4.1~+5.2】	66.9~68.4 【-8.3~-6.6】
国語B	65.1~65.5 (65.3±0.2)	71.0~72.4 【+5.5~+7.3】	57.0~58.9 【-8.5~-6.2】

	全国(公立)の 平均正答率(%) [95%信頼区間]	47都道府県(公立)中, 最高平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】	47都道府県(公立)中, 最低平均正答率(%) [95%信頼区間] 【全国との差】
数学A	64.4~64.8 (64.6±0.2)	71.6~73.1 【+6.8~+8.7】	49.8~52.2 【-15.0~-12.2】
数学B	43.1~43.5 (43.3±0.2)	51.9~53.8 【+8.4~+10.7】	28.9~31.0 【-14.6~-12.1】

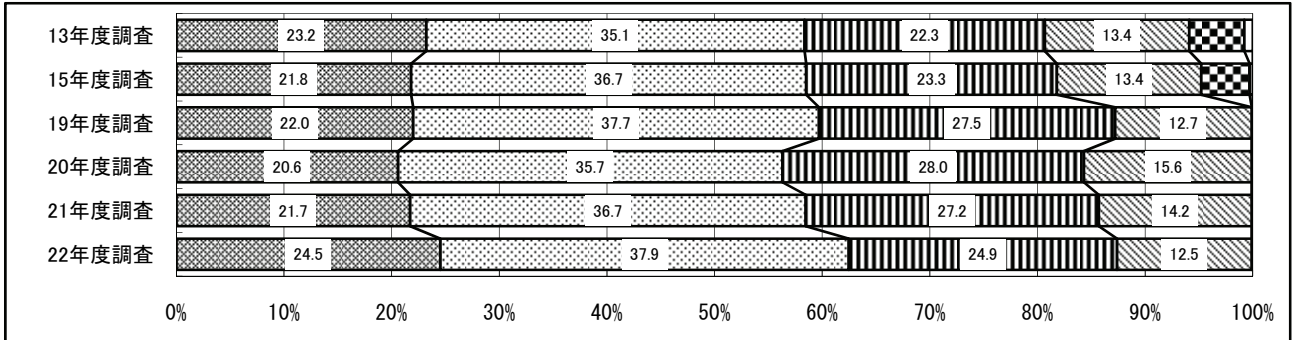
# ○児童生徒質問紙

## 学習に対する関心・意欲・態度

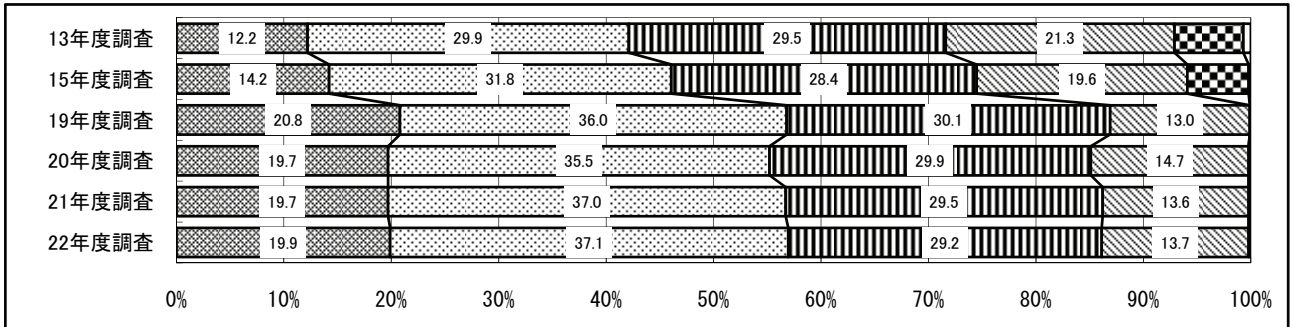
○国語の勉強が好きな児童の割合は、21年度、22年度と増加し、約62%である。生徒の割合は約57%と、13年度・15年度と比べ高くなっているが、19年度からの4年間は大きな変化は見られない。



【小学校】\*質問 52：国語の勉強は好きですか

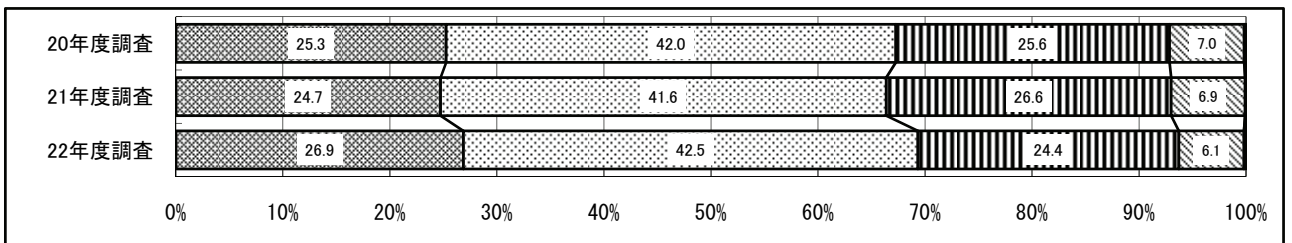


【中学校】\*質問 52：国語の勉強は好きですか

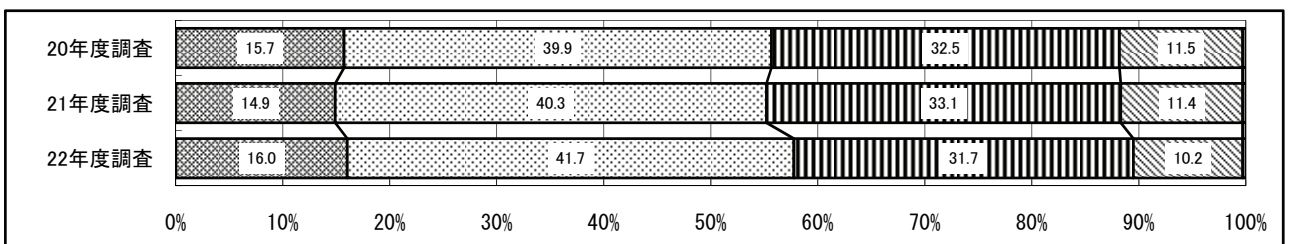


○国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている児童の割合が約69%、生徒の割合が約58%と、ともに21年度と比べやや高くなっている。

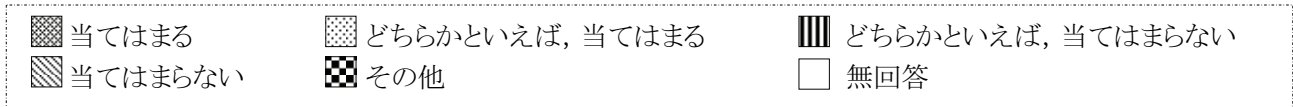
【小学校】\*質問 59：国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか



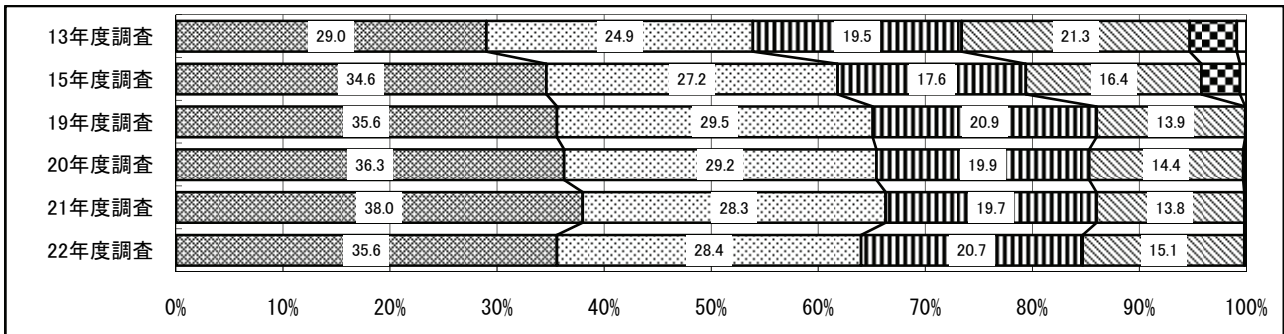
【中学校】\*質問 59：国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか



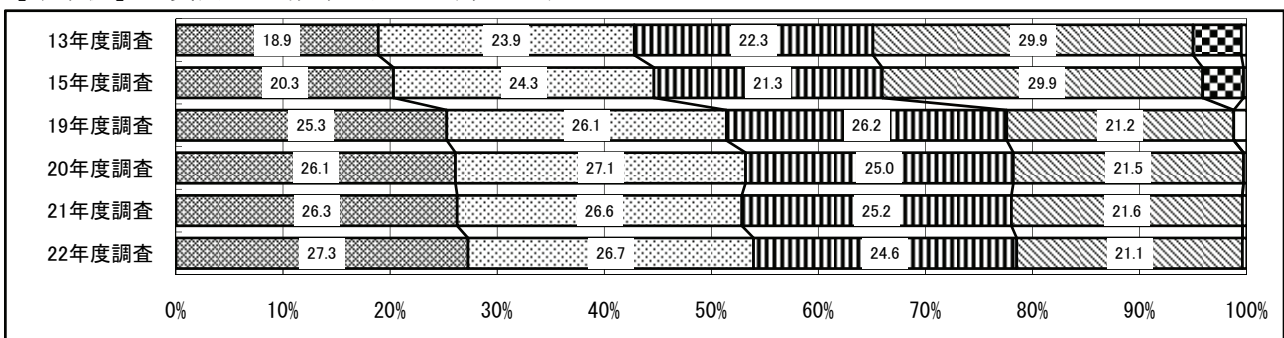
○算数の勉強が好きな児童の割合は約 64%と 21 年度と比べやや低くなっている。数学の勉強が好きな生徒の割合は約 54%と、13 年度・15 年度と比べ高くなっているが、19 年度からの 4 年間は大きな変化は見られない。



【小学校】\*質問 63：算数の勉強は好きですか

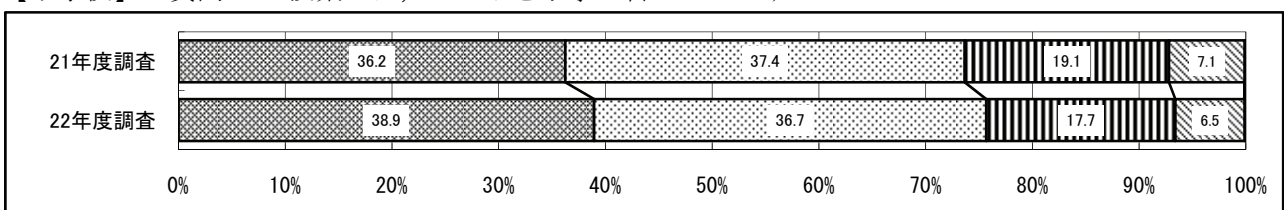


【中学校】\*質問 63：数学の勉強は好きですか

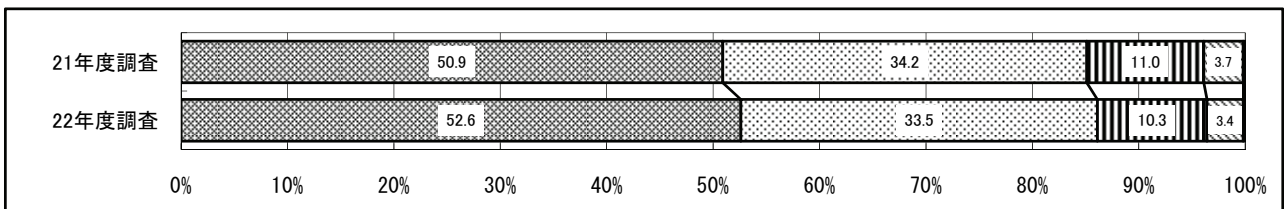


○授業でノートを丁寧に書いている児童の割合は約 76%と 21 年度と比べやや高くなっているが、生徒の割合は約 86%と 21 年度と比べ大きな変化は見られない。

【小学校】\*質問 49：授業では、ノートを丁寧に書いていますか

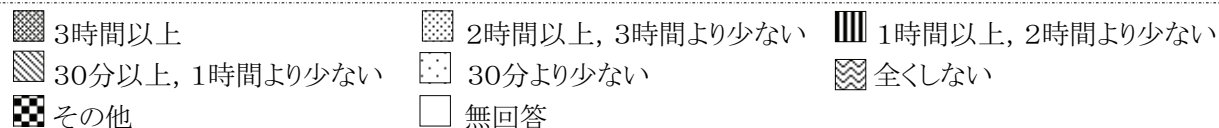


【中学校】\*質問 49：授業では、ノートを丁寧に書いていますか

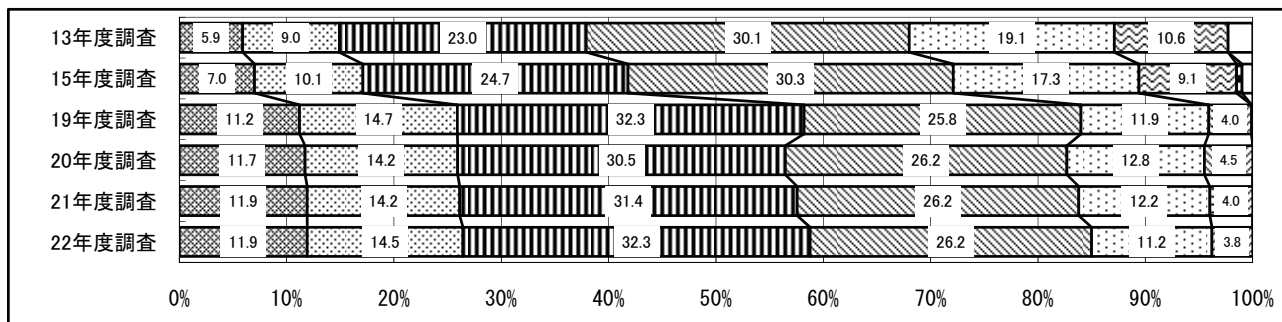


## 学習時間等

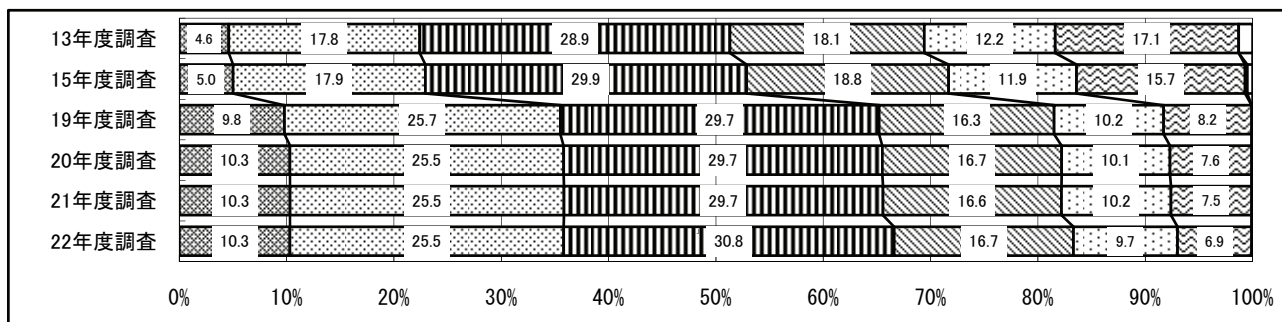
○児童生徒の1日当たりの学習時間は、13年度・15年度と比べ多くなっているが、19年度からの4年間は大きな変化は見られない。



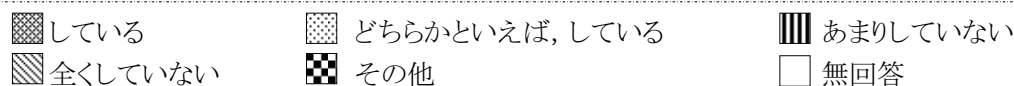
【小学校】\*質問 16: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



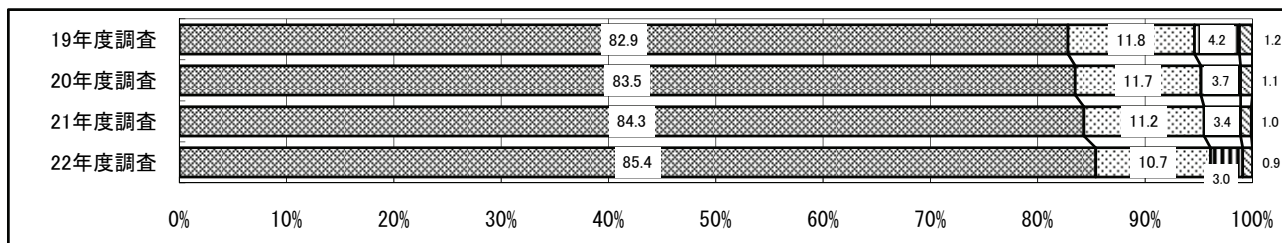
【中学校】\*質問 16: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



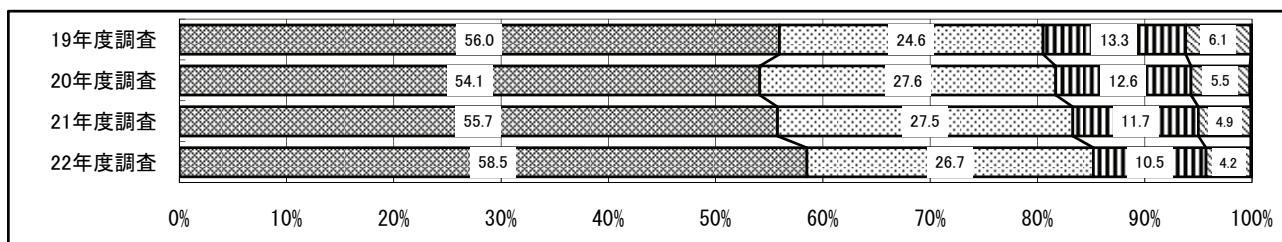
○家で学校の宿題をする児童の割合は約96%と、大きな変化は見られないが、生徒の割合は約85%と、若干の増加傾向がうかがえる。



【小学校】\*質問 26: 家で学校の宿題をしていますか

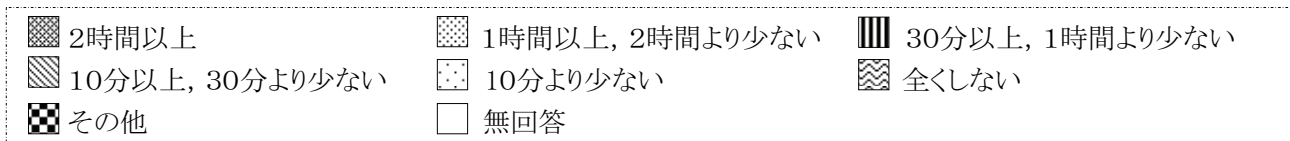


【中学校】\*質問 26: 家で学校の宿題をしていますか

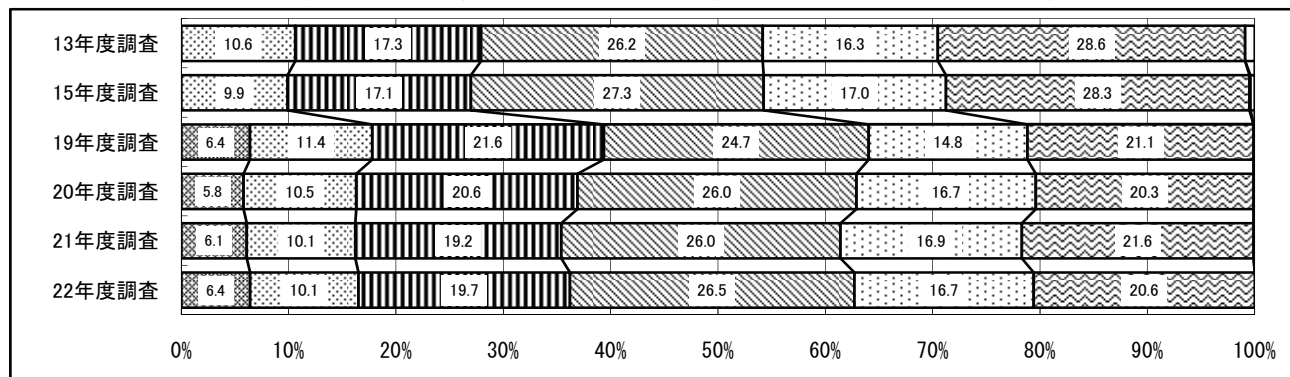




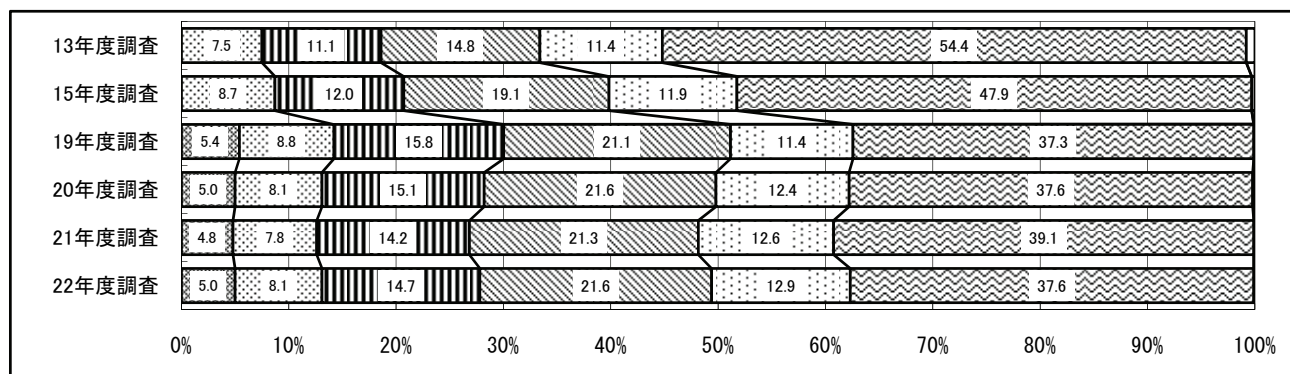
○児童生徒の家や図書館での1日当たりの読書時間は、13年度・15年度と比べ多くなっているが、19年度からの4年間は、20年度が19年度と比べやや低くなっていることを除き、大きな変化は見られない。



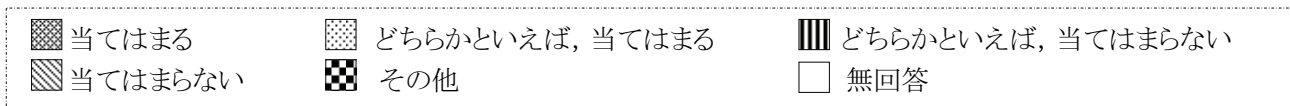
【小学校】\*質問 19：家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか



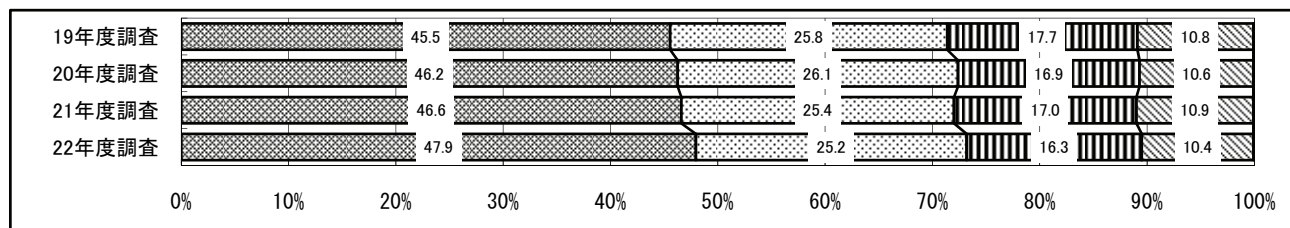
【中学校】\*質問 19：家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか



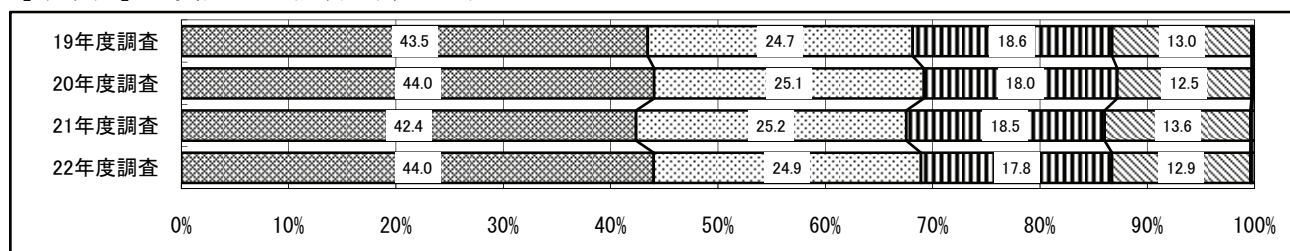
○読書が好きな児童の割合は約73%、生徒の割合は約69%と、ともに大きな変化は見られない。



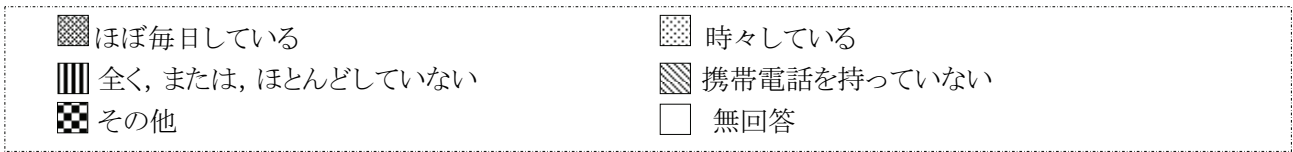
【小学校】\*質問 55：読書は好きですか



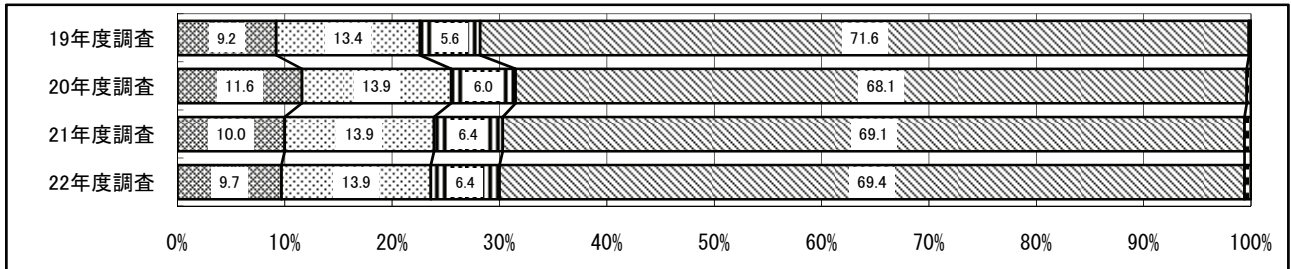
【中学校】\*質問 55：読書は好きですか



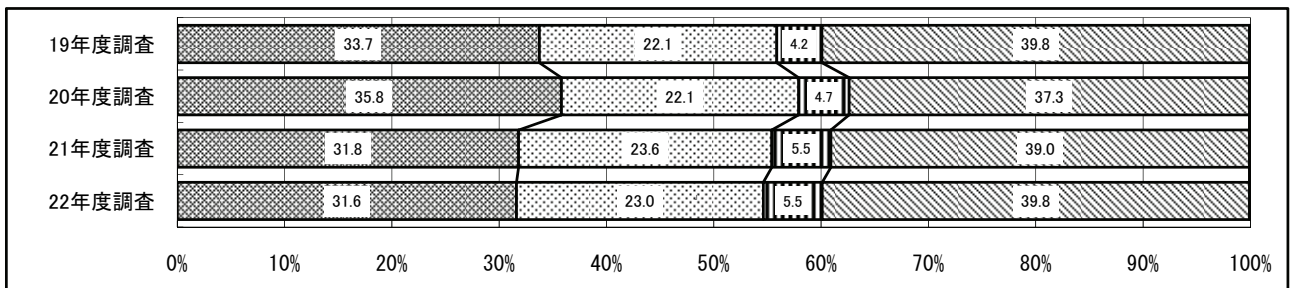
○携帯電話で通話やメールをほぼ毎日している児童の割合は約 10%、生徒の割合は約 32%と、ともに 21 年度と比べ大きな変化は見られない。



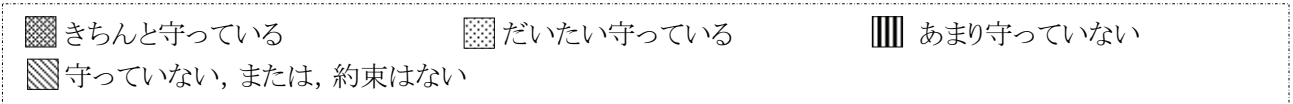
【小学校】\*質問 15：携帯電話で通話やメールをしていますか



【中学校】\*質問 15：携帯電話で通話やメールをしていますか



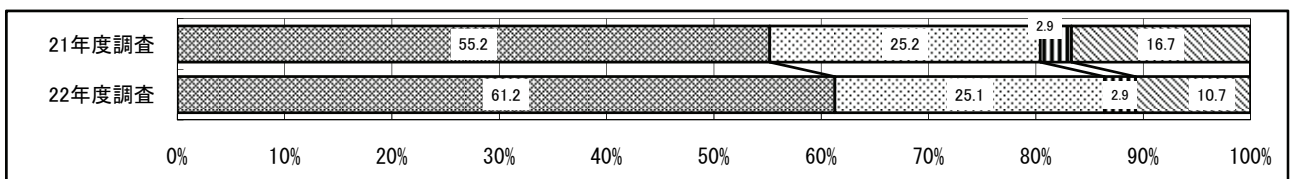
○携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている児童の割合は約 86%、生徒の割合は約 73%と、ともに 21 年度と比べ高くなっている。



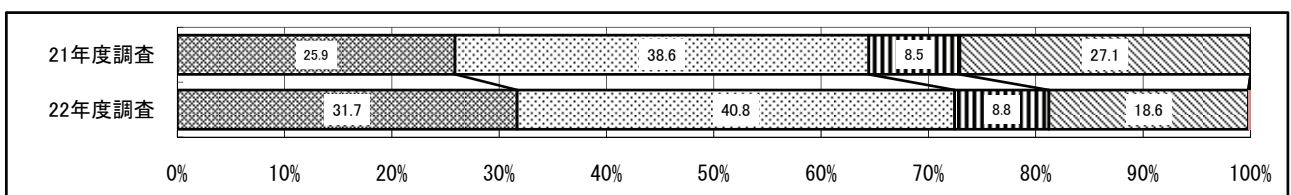
\*質問 24：携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

(母数：携帯電話を持っている児童生徒)

【小学校】

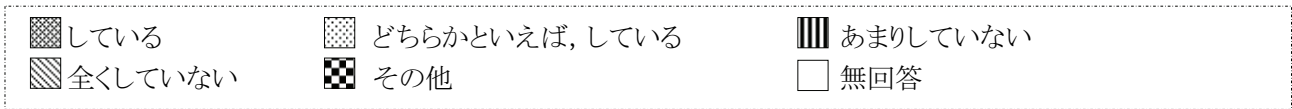


【中学校】

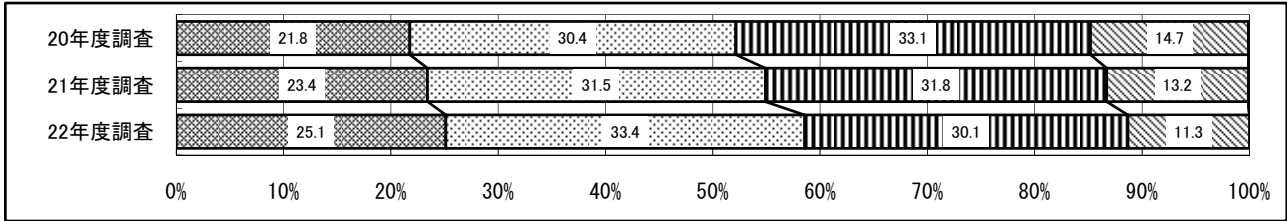




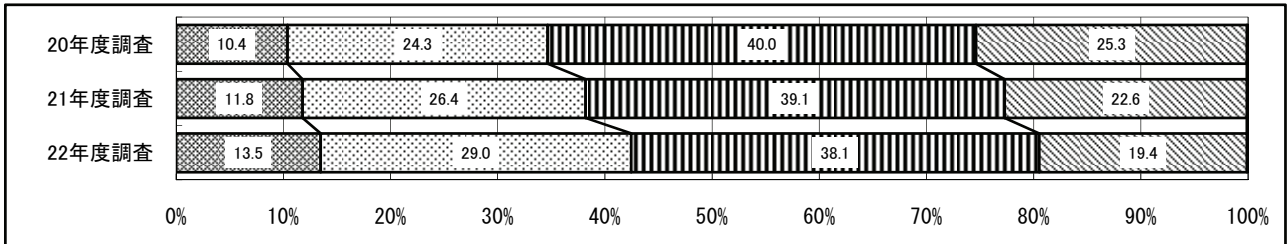
○家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は約 59%，生徒の割合は約 43%と、ともに増加傾向が見られる。



【小学校】\*質問 25：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

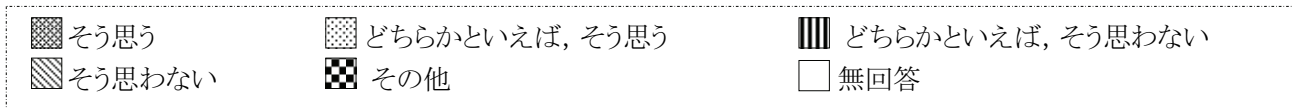


【中学校】\*質問 25：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



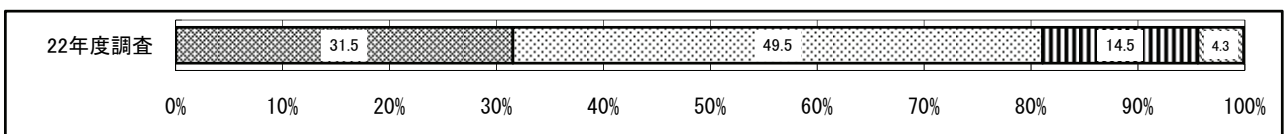
### 学校生活等

◎学級のきまりなどを友達同士で話し合っていると思う児童の割合は約 81%，生徒の割合は約 70%である。

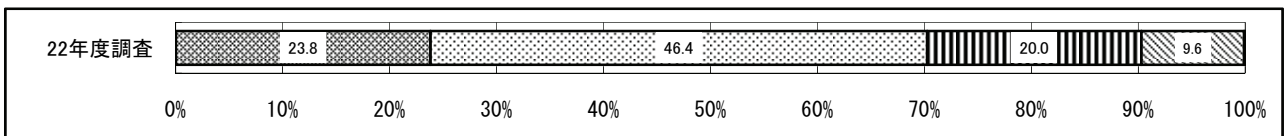


\*質問 43：あなたの学級では、学級の友達同士で話し合っている学級のきまりなどを決めていると思いますか **新規**

【小学校】

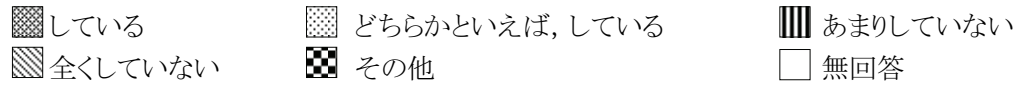


【中学校】

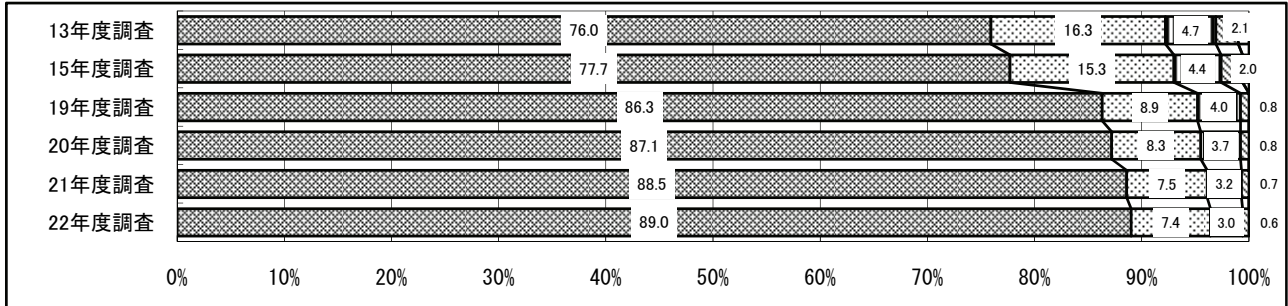


## 基本的な生活習慣

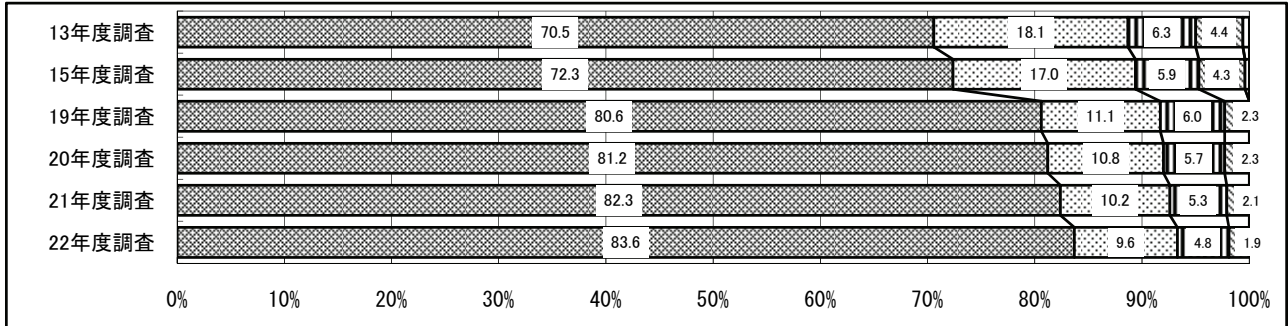
○朝食を毎日食べている児童の割合は約 89%，生徒の割合は約 84%と、ともに若干の増加傾向がうかがえる。



【小学校】\*質問 1：朝食を毎日食べていますか

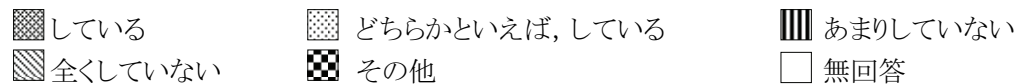


【中学校】\*質問 1：朝食を毎日食べていますか

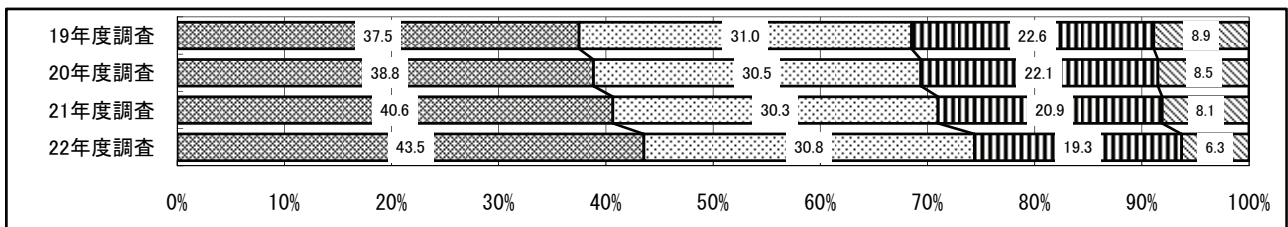


## 家庭でのコミュニケーション

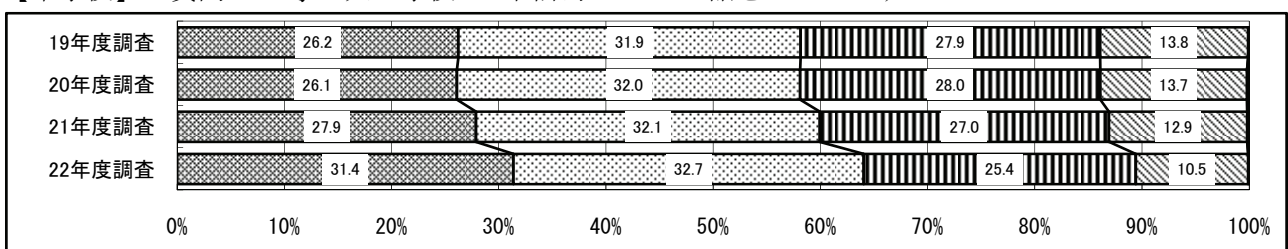
○家の人と学校での出来事について話をしている児童の割合は約 74%，生徒の割合は約 64%と、ともに増加傾向がうかがえる。



【小学校】\*質問 22：家の人と学校での出来事について話をしていますか

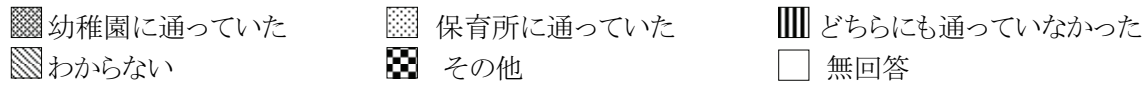


【中学校】\*質問 22：家の人と学校での出来事について話をしていますか

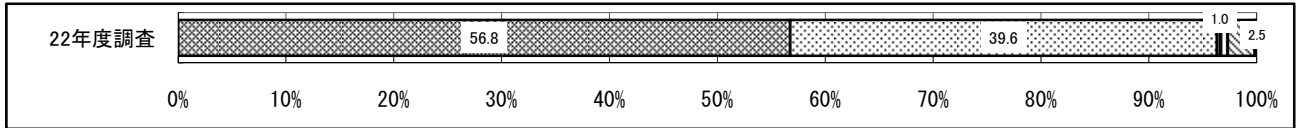


## 幼児教育経験

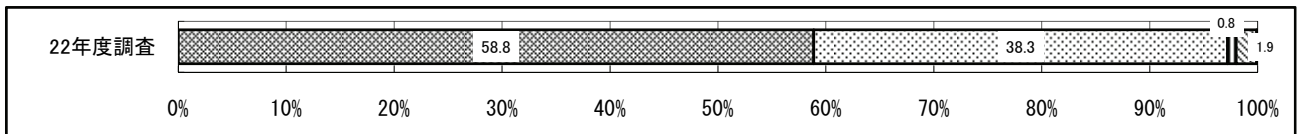
◎ 3歳から6歳までの間に、幼稚園に通っていた児童の割合は約57%、生徒の割合は約59%であり、保育所に通っていた児童の割合は約40%、生徒の割合は約38%である。



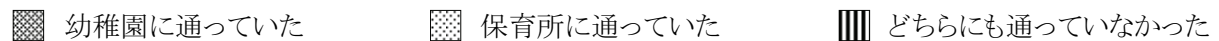
【小学校】\*質問35：保育所や幼稚園に通っていましたか **新規**



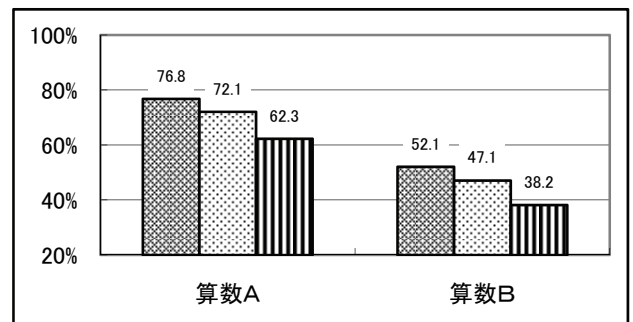
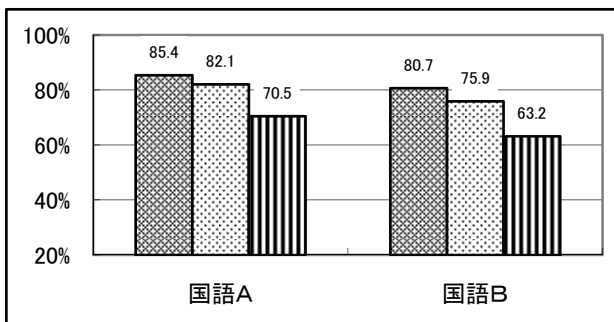
【中学校】\*質問35：保育所や幼稚園に通っていましたか **新規**



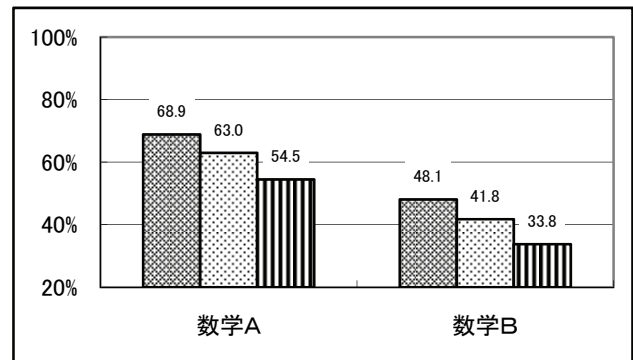
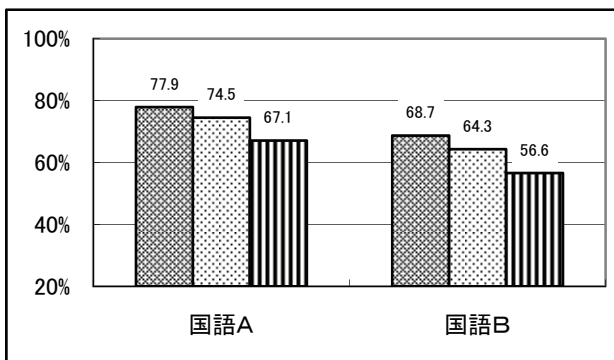
◎ 3歳から6歳までの間に、「幼稚園に通っていた」児童生徒、「保育所に通っていた」児童生徒、「どちらにも通っていなかった」児童生徒の順に、正答率が高い傾向が見られる。



【小学校】\*質問35：保育所や幼稚園に通っていましたか **新規**



【中学校】\*質問35：保育所や幼稚園に通っていましたか **新規**

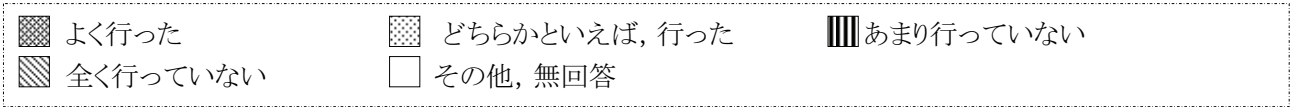


※「わからない」の選択肢は省略している。

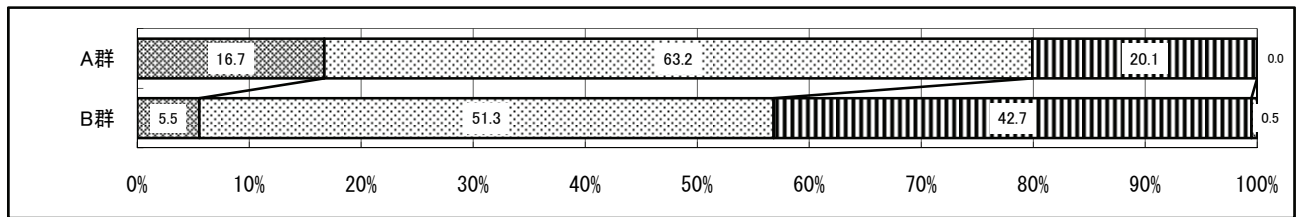
# ○学校質問紙

## 家庭学習・家庭との連携

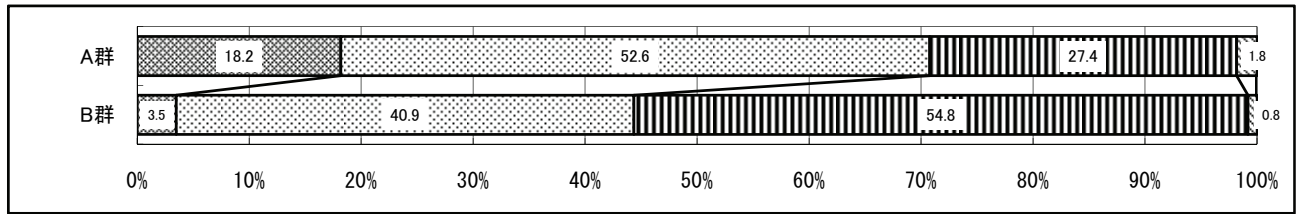
- ◎平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校（A群）の方が、5ポイント以上全国平均を下回る学校（B群）より、国語・算数（数学）の指導について、
- ・家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出している
  - ・学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしている
- と回答している割合が高い傾向が見られる。



\*質問 81(80)：家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出していますか **新規**  
【小学校】

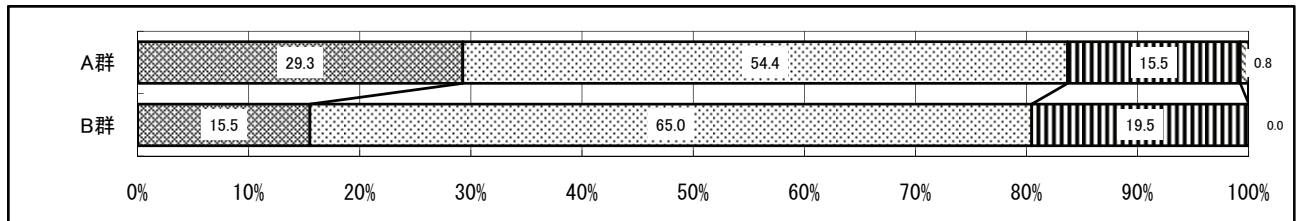


【中学校】

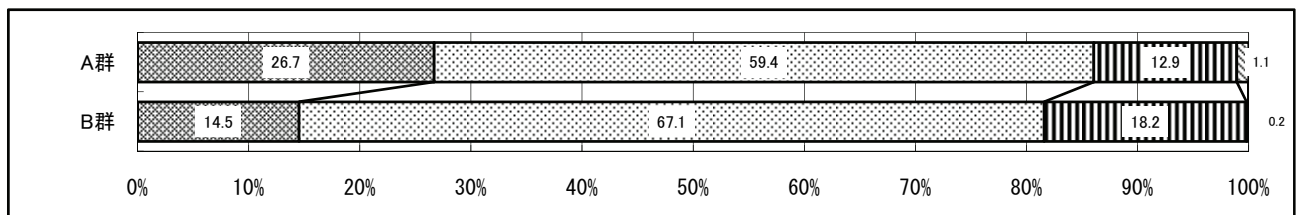


\*質問 82(81)：家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしていますか **新規**

【小学校】

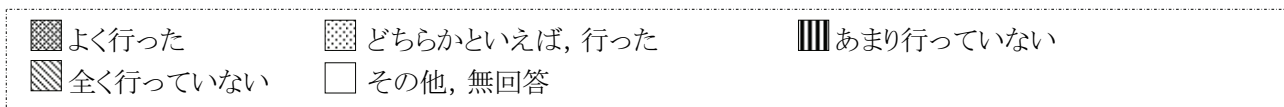


【中学校】

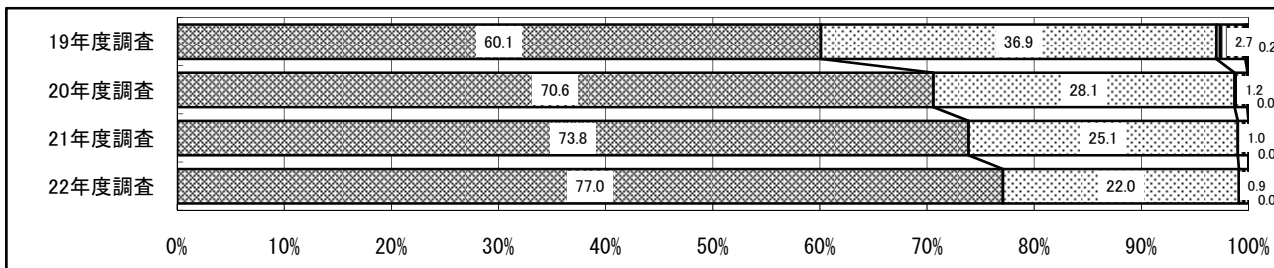


※( )内の質問番号は、中学校調査の質問番号である。  
※A群及びB群による比較を行っているグラフについては、小学校第6学年又は中学校第3学年の学級数が2学級以上の公立学校(特別支援学校を除く)について分析している。国語A・B, 算数(数学)A・Bのすべてにおいて、学校の平均正答率が、公立学校に在籍する児童生徒の正答率の全国平均を5ポイント以上上回る公立学校を「A群」、全国平均を5ポイント以上下回る公立学校を「B群」とする。

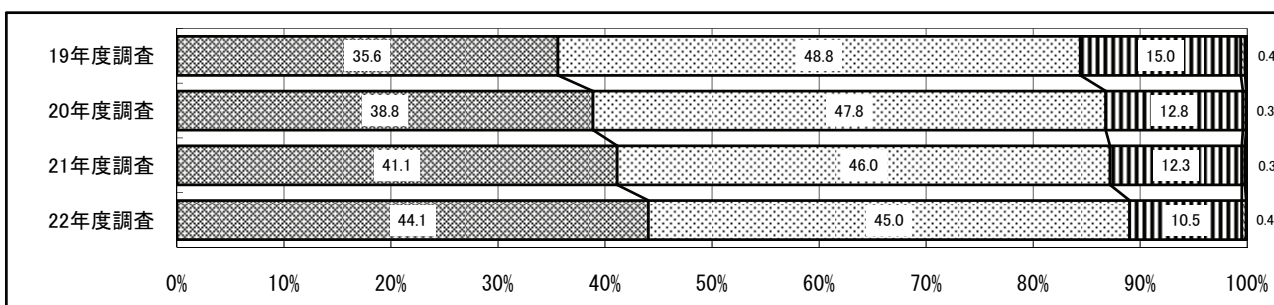
○国語・算数（数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）をよく与えた学校の割合に、増加傾向がうかがえる。



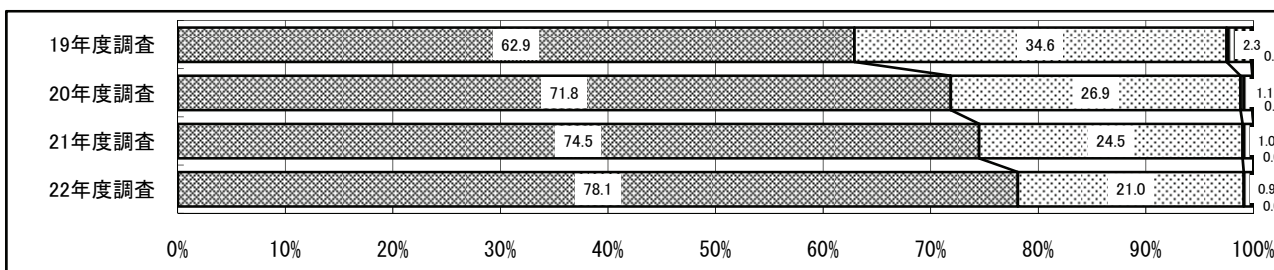
【小学校】\*質問 73：国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



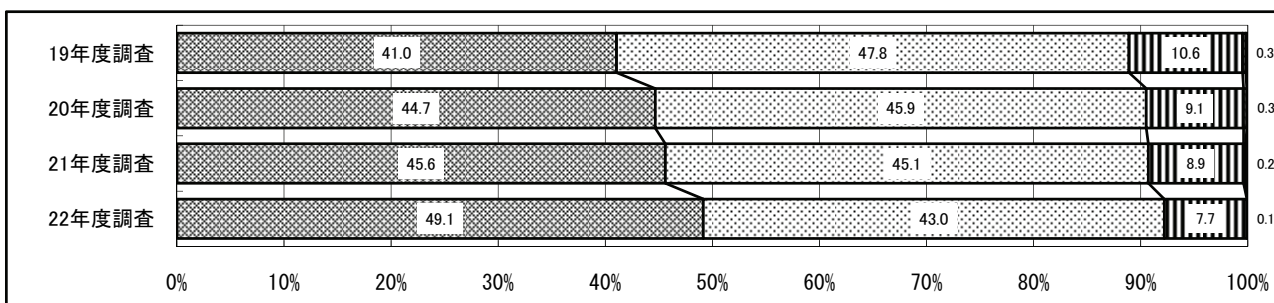
【中学校】\*質問 72：国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



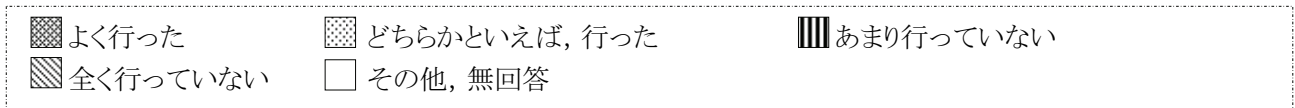
【小学校】\*質問 77：算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



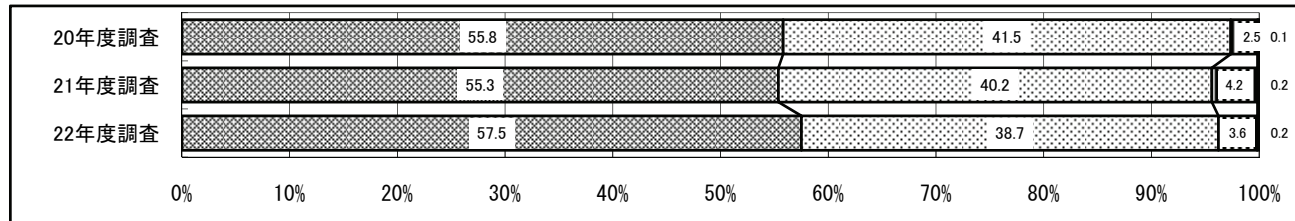
【中学校】\*質問 76：数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



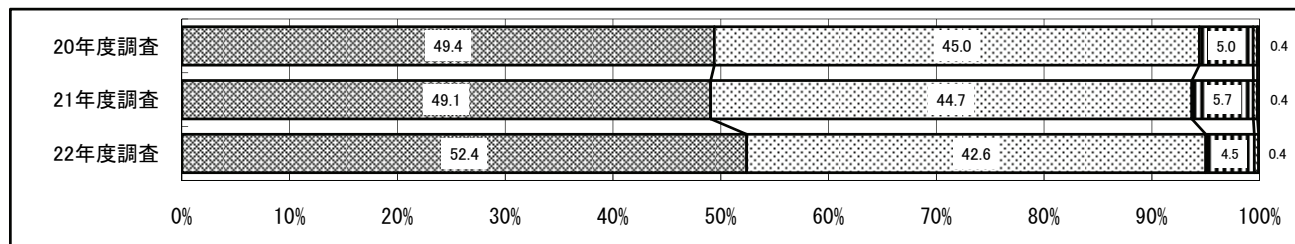
○国語・算数（数学）の指導として、家庭学習の課題について、評価・指導をよく行った小学校・中学校の割合は、ともに21年度と比べやや高くなっている。



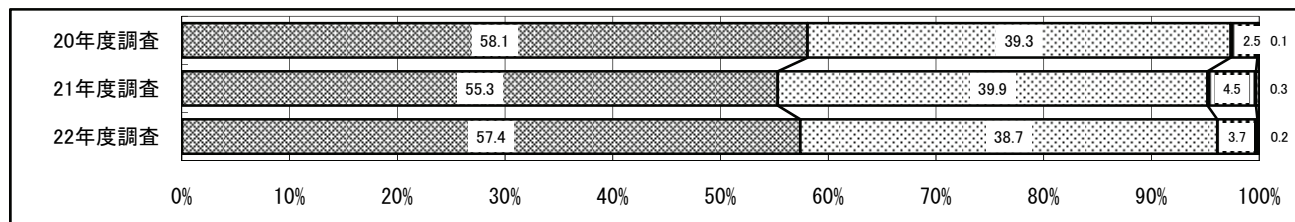
\* 質問 76(75) : 国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか  
【小学校】



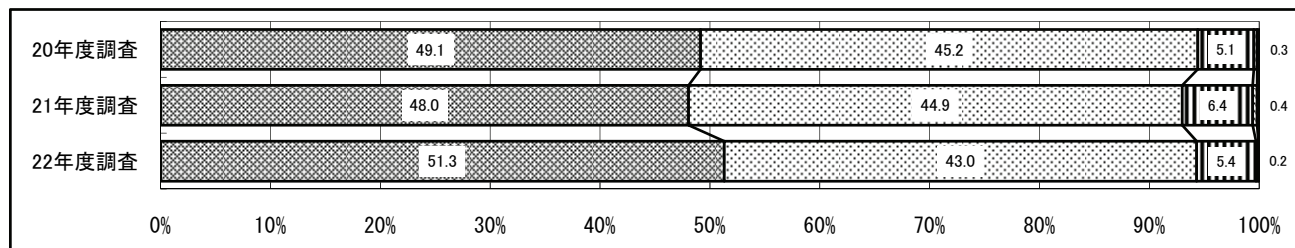
【中学校】



\* 質問 80(79) : 算数(数学)の指導として、児童生徒が行った家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか  
【小学校】



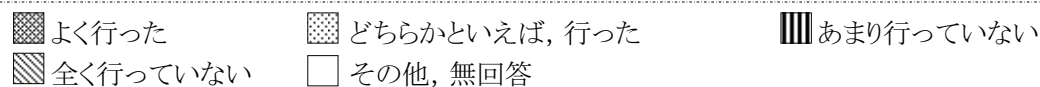
【中学校】



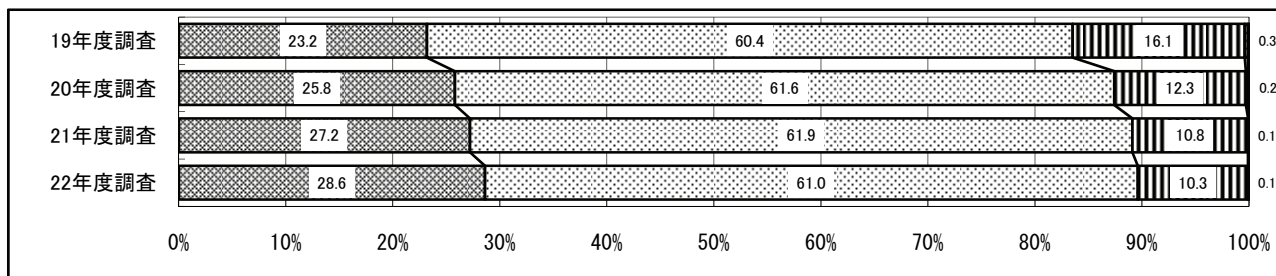


## 指導方法

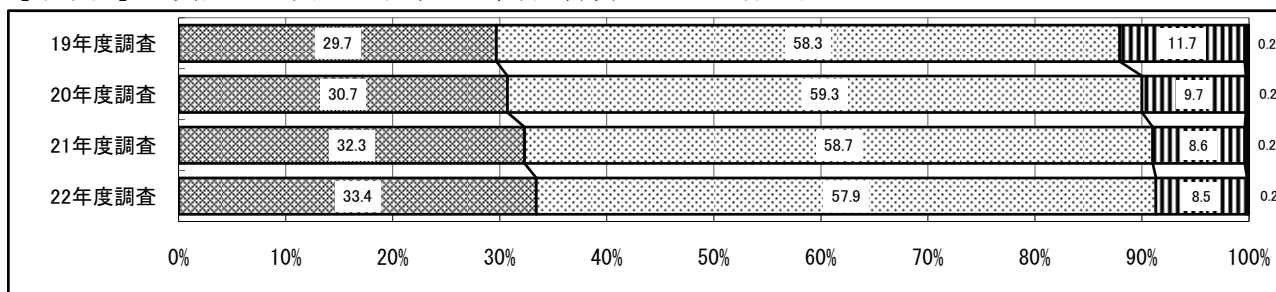
○国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行った学校の割合は、小学校は約 90%と、増加傾向がうかがえるが、中学校は約 91%と、若干の増加傾向がうかがえる。



【小学校】\*質問 59：国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか

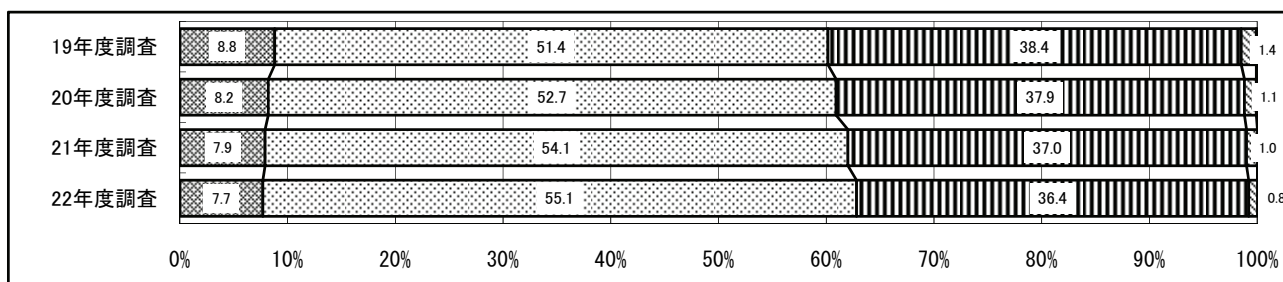


【中学校】\*質問 59：国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか

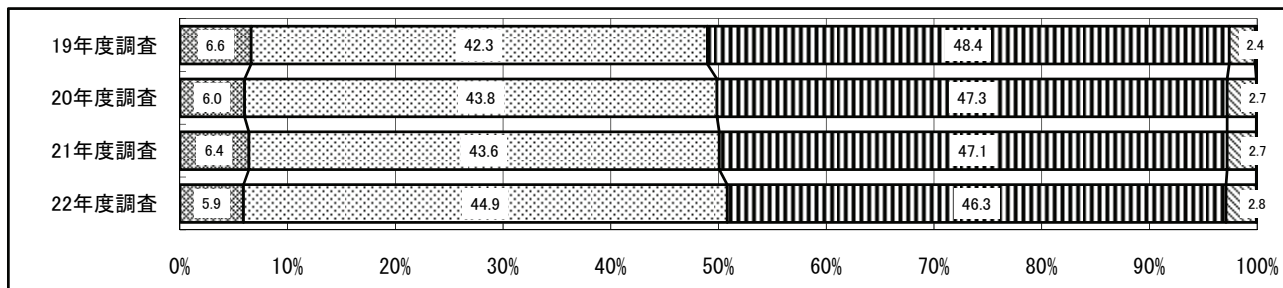


○算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、小学校は約 63%と、若干の増加傾向がうかがえるが、中学校が約 51%と、大きな変化は見られない。

【小学校】\*質問 64：算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



【中学校】\*質問 64：数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



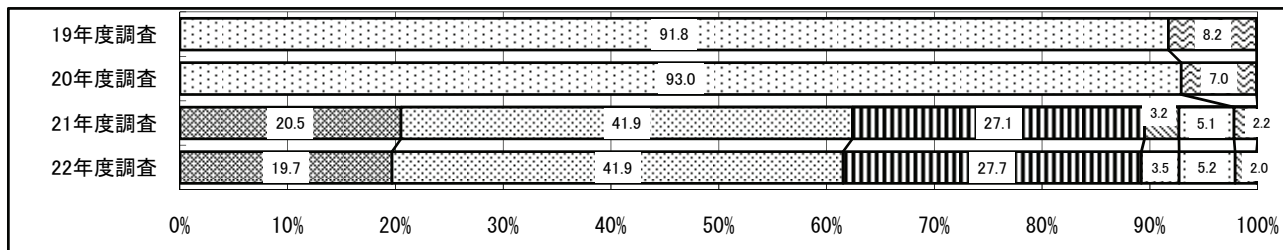


## 学力向上への取組等

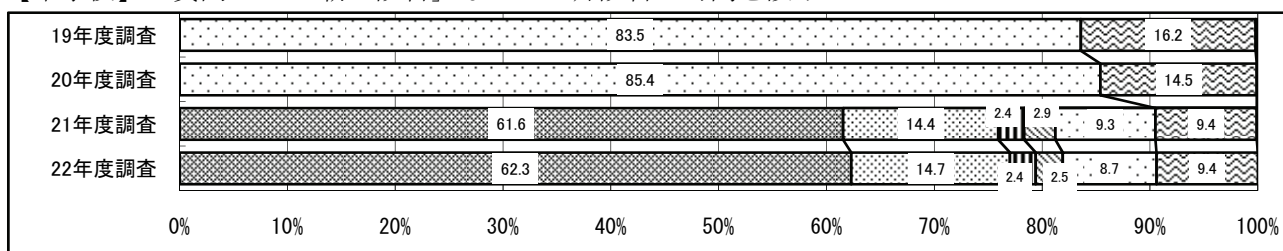
○「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合に、増加傾向がうかがえる。

基本的に毎日行った
  週に複数回、定期的に行った
  週に1回、定期的に行った
  月に数回程度、定期的に行った
  不定期に行った
  行っていない
  その他、無回答

【小学校】\*質問 22：「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか



【中学校】\*質問 22：「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか

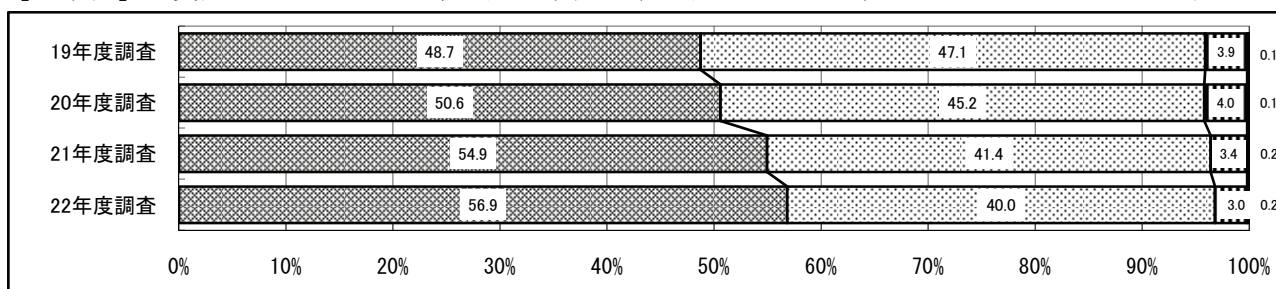


## 地域の人材の活用・施設等の活用・開かれた学校

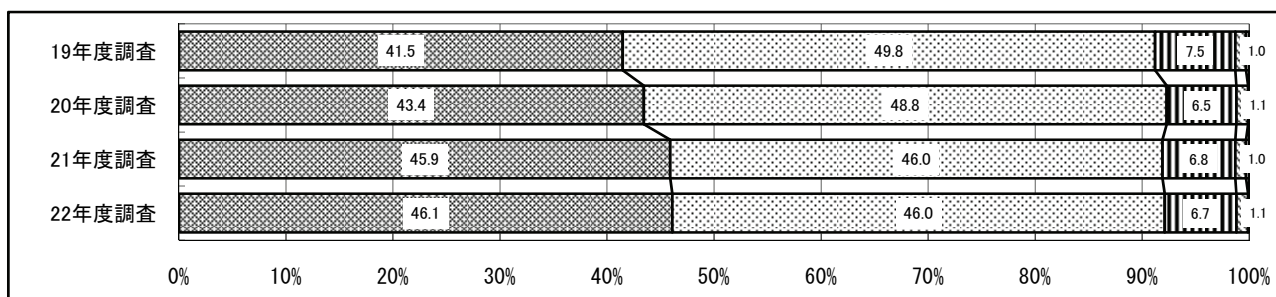
○PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとしてよく参加してくれる学校の割合は、小学校は約57%と、増加傾向がうかがえ、中学校は約46%と、若干の増加傾向がうかがえる。

よく参加してくれる
  参加してくれる
  あまり参加してくれない
  全く参加してくれない
  その他、無回答

【小学校】\*質問 71：PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか



【中学校】\*質問 70：PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

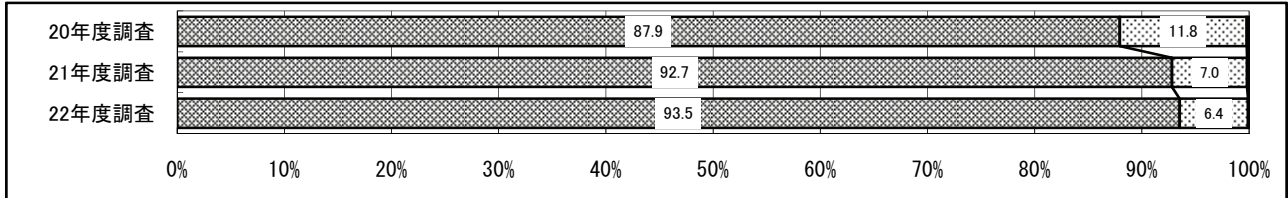


## 全国学力・学習状況調査の活用

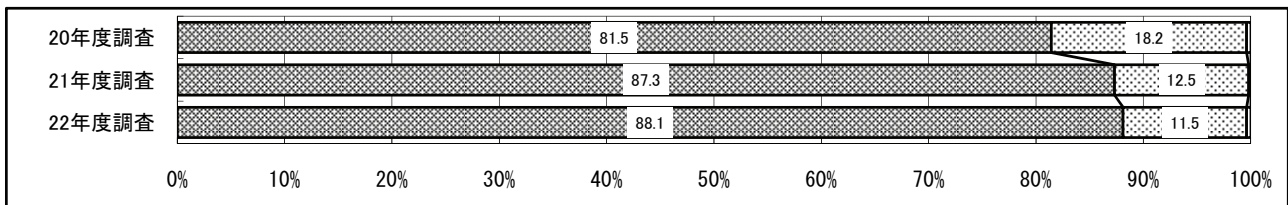
○全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校は、小学校は約94%、中学校は約88%と、ともに増加傾向がうかがえる。

■ はい                      ■ いいえ                      □ その他、無回答

\*質問 44:平成 21 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか  
【小学校】



【中学校】



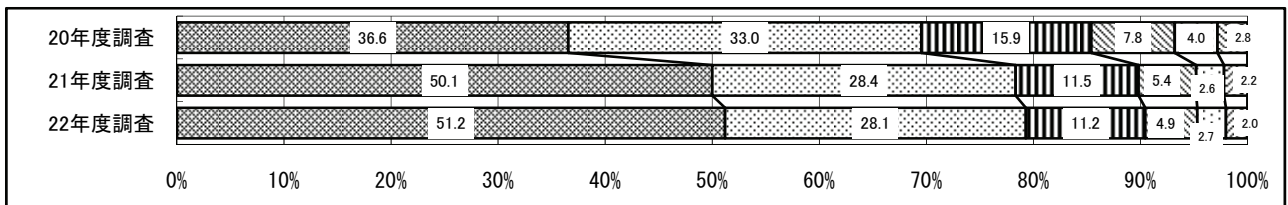
○全国学力・学習状況調査を活用した（指導計画に反映、具体的な教育指導の改善に活用、調査対象学年・教科だけでなく学校全体で活用、調査問題を授業の中で活用、指導計画等の検討にあたり調査結果を参考にした）学校の割合は、小学校は約98%、中学校は約95%であり、21年度と比べ大きな変化は見られない。

\*質問 43：平成 21 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させましたか  
\*質問 44：平成 21 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか  
\*質問 45：平成 21 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用しましたか  
\*質問 46：平成 21 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を平成 21 年度において、第6学年や他学年の授業の中で活用しましたか  
\*質問 47：学校の指導計画や取組を検討するにあたり、平成 21 年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか

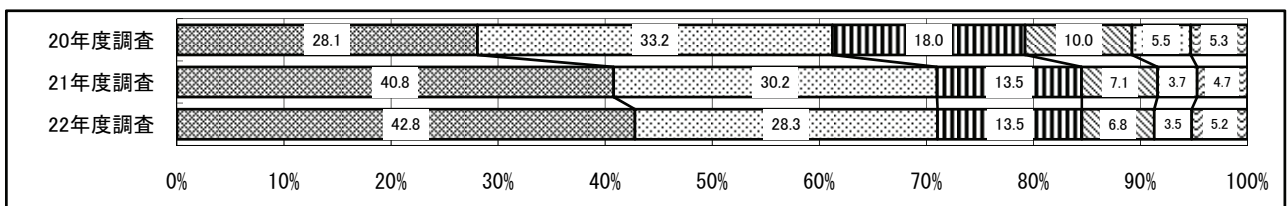
上記の質問に対して

■ 全て肯定的な回答の学校                      ■ 肯定的な回答が4つの学校                      ■ 肯定的な回答が3つの学校  
■ 肯定的な回答が2つの学校                      ■ 肯定的な回答が1つの学校                      ■ 全く肯定的な回答がない学校

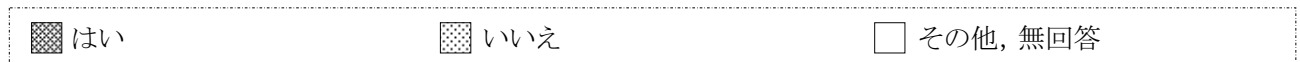
【小学校】



【中学校】

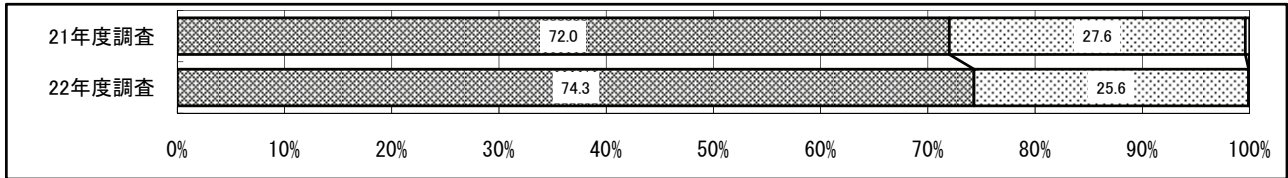


○全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った学校の割合は、小学校は約74%とやや高くなっているが、中学校は約68%と、21年度と比べ大きな変化は見られない。

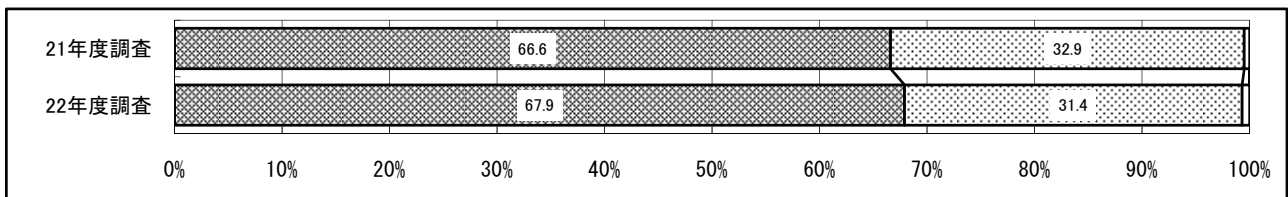


\*質問 48：平成 21 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか

【小学校】



【中学校】

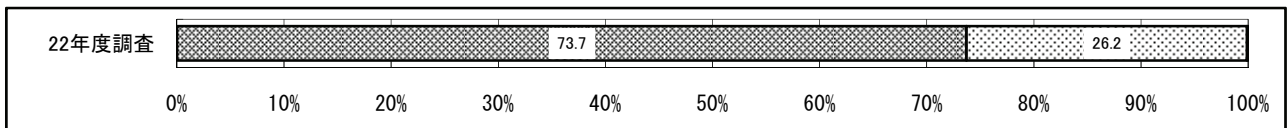


◎全国学力・学習状況調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った学校の割合は、小学校は約74%、中学校は約63%である。

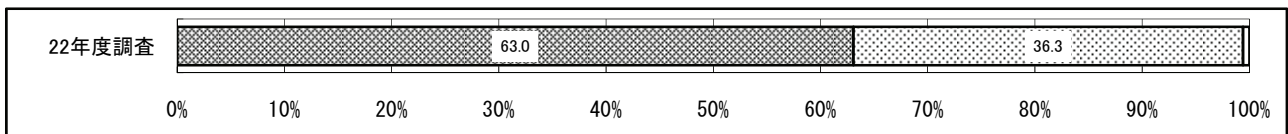


\*質問 49：平成 21 年度調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか **新規**

【小学校】



【中学校】

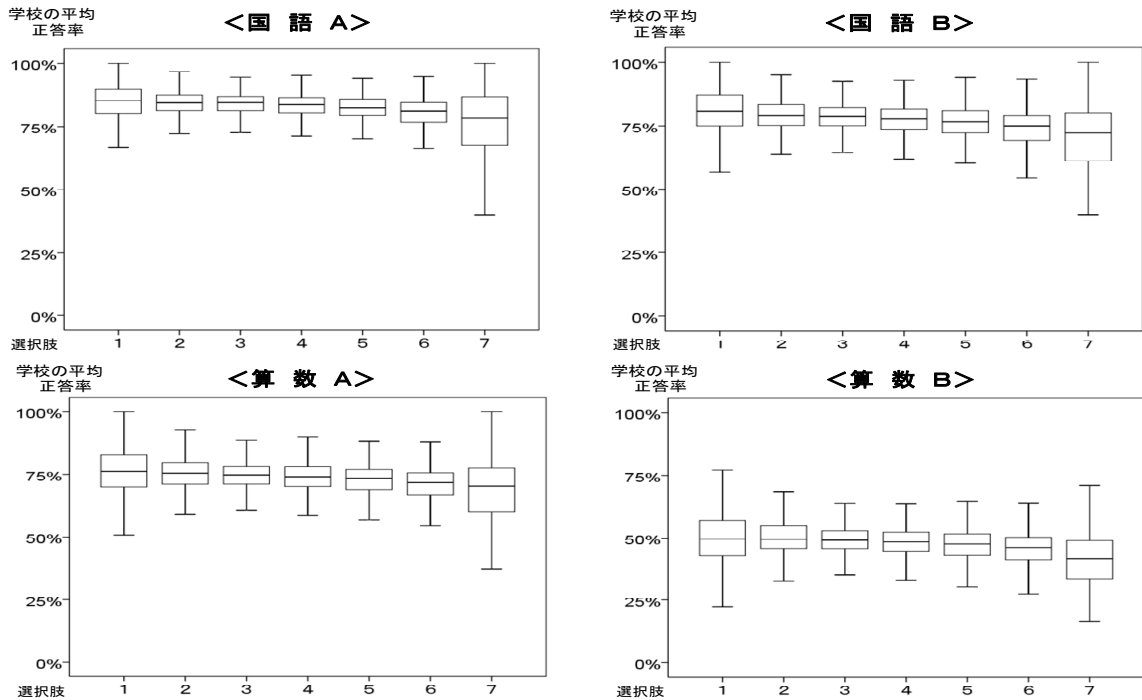


## 就学援助

- 就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校の方が、その割合が低い学校よりも平均正答率が低い傾向が見られる。
- 就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校は、各学校の平均正答率のばらつきが大きく、その中には、平均正答率が高い学校も存在する。

選択肢1 在籍していない      選択肢2 5%未満      選択肢3 5%以上, 10%未満  
 選択肢4 10%以上, 20%未満      選択肢5 20%以上, 30%未満      選択肢6 30%以上, 50%未満  
 選択肢7 50%以上

【小学校】＊質問 14：第 6 学年の児童のうち、就学援助を受けている児童の割合は、どれくらいですか



【中学校】＊質問 14：第 3 学年の生徒のうち、就学援助を受けている生徒の割合は、どれくらいですか

